

「医療的ケア児が地域において安心して療養できるようにする
ための小児訪問看護研修プログラムの開発及び研修会等の開催」
報告書

令和4年3月

一般社団法人全国訪問看護事業協会



目 次

I	小児訪問看護研修会プログラム開発の経緯-----	1
	1) 小児訪問看護研修会プログラム開発の経緯-----	1
	2) 事業実施概要 -----	2
II	令和3年度事業（令和2年度分）-----	9
	1) 小児訪問看護研修プログラムを用いた研修会の開催-----	9
	2) 小児訪問看護情報交換会の開催-----	17
	3) 小児訪問看護研修会受講者へのアンケート調査-----	19
	4) 委員の動画視聴後アンケート調査-----	73
III	今年度の成果と課題 -----	91

I 小児訪問看護研修会プログラム開発の経緯

1) 小児訪問看護研修会プログラム開発の経緯

現在、小児を取り巻く医療の問題として、急性期の集中治療を担う NICU に長期入院する乳幼児の在宅医療への移行が進まない事から生じる NICU の慢性的な病床不足などがある。国は、そのような乳幼児を在宅に移行するための施策を打ち出しているが、思うように小児の在宅への移行が伸びていないのが現状である。

また、近年の新生児医療の進歩により、超低出生体重児や先天的な疾病を持つ子どもなど、これまでに救うことが難しかった命を救うことができるようになり、在宅で療養しながら生活しているいわゆる医療的ケア児が増えている。

しかし、小児訪問看護を行っている訪問看護ステーションの数及び小児の訪問看護を担える看護師は微増で、医療的ケア児の在宅療養を支える体制が整っていない。在宅療養を継続する小児とその家族が安心して療養できる地域づくりが必要である。

上記の背景には、在宅療養を支援する立場の訪問看護の現場において「小児科を経験したことのある看護師がいない」「小児への医療処置に不安がある」などの声が聞かれており、小児訪問看護の提供に積極的になれないという一面がある。

そこで、当協会では、以下の事業を通じて、小児訪問看護を行うことのできる訪問看護師及び訪問看護事業所の増加を目指すこととした。

- ・小児訪問看護推進検討部会の設置・運営
- ・小児訪問看護研修プログラムの開発
- ・小児訪問看護研修プログラムを用いた研修会の開催
- ・小児訪問看護情報交換会の開催
- ・小児訪問看護研修会受講者へのアンケート調査

2) 事業実施概要

(1) 小児訪問看護推進検討部会の設置・運営

以下の構成員からなる小児訪問看護推進検討部会を設置・運営した。部会は、令和3年6月2日、令和3年12月13日、令和4年3月2日に開催した。

小児訪問看護推進検討部会 委員名簿

区分	氏名	所属
委員長	尾田 優美子	訪問看護ステーション 細江 所長
委員	倉田 慶子	順天堂大学医療看護学部／医療看護学研究科 小児看護学 小児看護専門看護師
	小宮山 日登美	訪問看護ステーションひとみ 管理者
	作田 和子	小石川医師会訪問看護ステーション
	田中 歩	特定非営利活動法人えがおさんさん 代表理事
	埴 真美子	はみんぐ訪問看護ステーション 統括管理者
事務局	高砂 裕子	全国訪問看護事業協会 副会長
	吉原 由美子	全国訪問看護事業協会 業務主任
	井上 多鶴子	全国訪問看護事業協会
	是木 美奈子	全国訪問看護事業協会

(50音順、敬称略)

(2) 小児訪問看護研修プログラムを用いた研修会の開催

小児訪問看護研修プログラムを用いて、研修会を開催した。詳細は「Ⅱ 1) 小児訪問看護研修プログラムを用いた研修会の開催」参照。

(3) 小児訪問看護研修プログラムの開発

次頁のとおり、小児訪問看護研修プログラムの開発を行った。なお、実情に応じて、小児訪問看護推進検討部会において内容の見直しを行っている。

基礎編	「はじめよう小児訪問看護」
スキルアップ編	「いのちを支える」
	「活動すること」
	「呼吸すること」
	「食べること」

小児訪問看護研修プログラム：はじめよう小児訪問看護（基礎編）

	カテゴリー	時間	講義名	目的	到達目標	学習方法	具体的な内容	
							講義	演習等
1 日 目	②医療・看護の知識各論	2時間	訪問看護の実際	訪問看護の実際を理解する	・小児訪問看護の実際が理解できる。	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・新生児医療の現状と課題（NICUでケアを受ける子どもの状態やNIC満床問題の背景など） ・新生児医療からの退院支援の実際や課題（地域の医師や訪問看護ステーションとの連携） ・新生児医療を受ける家族の現状と課題 ・小児訪問看護の実際 	
	①重症心身障害・小児医療概論	2時間	診療所が実施する小児在宅医療の実際	小児在宅医療を支える地域医療の役割・機能について理解できる	<ul style="list-style-type: none"> ・小児在宅医療に関する開業医の取り組みが理解できる ・地域医療における開業医の役割・機能について理解できる 	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・地域での訪問看護の連携の実際について ・在宅医などの地域連携について ・小児科医ではない在宅医との連携について ・小児科医の在宅医療の実際と課題について ・大学病院などの医療連携について 	
	②医療・看護の知識各論	2時間	重症心身障害児者の原因となる疾患・状態像の理解と対応	重症心身障害児者の原因となる疾患・状態像を理解し、その対応、かかわりについて学びを深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・重症心身障害児者の原因となる疾患、状態像と合併症について理解できる ・重症心身障害児の状態像に対応した治療方法やかかわりについて理解できる 	講義		
	①重症心身障害・小児医療概論	1時間	小児看護の現状と課題	新生児医療の動向、NICUでの医療・看護の役割、機能について	<ul style="list-style-type: none"> ・新生児医療の実際と動向が理解できる ・NICUでケアを受ける子どもとその家族の状況が理解できる。 ・NICUの医療従事者のかかえる課題が理解できる。 ・小児訪問看護の実際が理解できる。 	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・重症心身障害の原因となる疾患の合併症や治療について（出生前・出生時から新生時期・新生児期から18歳までの時期に分けた原因） ・重症心身障害となる疾患をもつ子どもの成長発達の実状と対応について（事例をまじえて） 	
2 日 目	②医療・看護の知識各論	3時間	脳性まひ・筋疾患・染色体異常などの主な疾患について	重症心身障害児の主要疾患・病態について学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・脳性まひについて理解する ・代表的な筋疾患の病態について理解する ・代表的な染色体異常の病態について理解する ・各疾患の治療について理解できる ・筋緊張の病態について理解できる 	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・脳性まひについて ・代表的な筋疾患の病態について ・代表的な染色体異常の病態について ・各疾患の治療について ・筋緊張の病態について 	
	③ケア・援助論	2時間	骨折・移乗介助・更衣	骨折の機序、原因、骨折予防に重点をおいた移乗介助や更衣の際の注意点を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・骨の解剖生理を理解できる ・骨折予防の注意点を理解できる ・移乗の際の注意点を理解できる ・更衣の際の注意点を理解できる 	講義・演習	<ul style="list-style-type: none"> ・骨の解剖生理について ・骨折予防の注意点について ・移乗の際の注意点について ・更衣の際の注意点について 	映像を用いた講義
3 日 目	②医療・看護の知識各論	6時間	子どもの成長発達とフィジカルアセスメント	子どもの発達・生理学的変化を理解できる	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの成長発達について理解できる ・子どもの全身アセスメントの方法が理解できる ・フィジカルアセスメントの方法を演習できる 	講義(3H)・演習(3H)	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの身体の生理的な特徴などについて（おとなと子どものフィジカルアセスメントの違いや詳しい生理学的変化の違い） ・子どもの成長発達について ・フィジカルアセスメント技術 ・子どもに特長的な感染症について（病態と治療麻疹・風疹・水痘・手足口病・流行性耳下腺炎・尿路感染症・MRSAなど） ・予防接種について 	フィジカルアセスメント「問診」「視診」「聴診」「触診」「打診」を子どものシミュレーターを基に演習する。（フィジカルアセスメント時の注意点や正常・異常状態や数値を口頭で提示しながら、進行する）
⑤施設等でのケアの実際		1日	診療所におけるケアの実際を学ぶ	小児在宅医療を支える地域医療の実際を学ぶ	診療所において見学実習			
		1日	NICUにおける実際のケアを学ぶ	NICUの機能・役割を理解し、NICUにおける看護の実際を学ぶ	NICUにおいて見学実習			
		1日	医療型入所施設・療養介護における実際のケアを学ぶ	入所施設の機能・役割を理解し、施設における看護の実際を学ぶ	入所施設において見学実習	<ul style="list-style-type: none"> ・同行訪問、同行見学を実施する ・訪問研修、見学時間などは、各施設で調整する ・各施設でオリエンテーションを受ける（各施設の役割、機能、従事する職員数、地域の特性、契約利用者の状況などの講義を受ける） 		
		2日	訪問看護の実際を学ぶ	小児訪問看護の機能・役割を理解し、家庭におけるケアの実際を学ぶ	訪問看護ステーションにおいて見学実習			
		1日	特別支援学校における実際のケアを学ぶ	特別支援学校の機能・役割を理解し、学びの場における看護の実際を学ぶ	特別支援学校において見学実習			
		1日	通所施設における実際のケアを学ぶ	通所施設の機能・役割を理解し、日中活動の場における看護の実際を学ぶ	通所施設において見学実習			

小児訪問看護研修プログラム：スペシャリストを目指そう（スキルアップ編）「いのちを支える」

	カテゴリー	時間	講義名	目的	到達目標	学習方法	具体的な内容	
							講義	演習等
	③ケア・援助論	2時間	よりよく生き抜くための重症心身障害児者の看護	重症心身障害児者がよりよく生き抜くための看護について理解し、課題について検討する	<ul style="list-style-type: none"> ・疾病により身体機能の危機的状態にある、および成長発達・加齢に伴い終末期に向う重症心身障害児者の病態が理解できる ・重症心身障害児者の治療の選択、家族の思いを理解することができる ・終末期に向かうあるいは終末期にある重症心身障害児者とその家族の支援について考えることができる 	講義 90分 GW 30分	<ul style="list-style-type: none"> ・疾病により身体機能の危機的状態にある(幼少期の身体機能の未熟さによる症状や進行性疾患による症状や病態)、および成長発達・加齢に伴い身体機能の変化によって表出する症状の悪化(側弯などによる呼吸障害、嚥下機能の低下による誤嚥性肺炎の繰り返し)などの重症心身障害児者の病態について ・重症心身障害児者の治療の選択、家族の思いについて ・終末期に向かうあるいは終末期にある重症心身障害児者とその家族の看護(痛みのケア・呼吸を安楽にするケア・家族と共に過ごすためのケア・家族への予後の説明など事例を交えた解説) 	グループワークはどうするか？実施するならば、講義時間に+30分程度？？アウトブレイクルームの機能を使い、＜体験や講義内容から考えたことを共有する＞
	③ケア・援助論	4時間	家族の思いに寄り添う看護	疾病や障害をもつ小児を支える家族の現状を理解し、支援のありかたを学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・疾病や障害をもつ子どもの家族及び介護者の思いがわかる ・重症心身障害児者の家族の理解を深め、支援について検討できる ・悲嘆の過程について理解する ・家族の障害受容に対する支援方法について理解する 	講義・演習(ディスカッション)	<ul style="list-style-type: none"> ・疾病や障害をもつ子どもの家族及び介護者の思いがわかる(主たる介護者となる家族の思いの背景が理解できるように、事例を交えて説明) ・重症心身障害児者の家族の理解を深め、支援について検討できるようにするために、ロールプレイを実施し、その後、ディスカッションをする ・悲嘆の過程について ・家族の障害受容に対する支援方法について、事例を交えて説明 	
2日目	②医療・看護の知識各論	3時間	小児がんについて	子どもに特徴的ながんの症状、治療に沿った援助方法を理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもに特徴的ながんについて理解する ・がんの治療方法について理解する ・がんに罹患している子どもの日常生活の注意点について理解する 	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもに特徴的ながんについて ・がんの治療方法について ・がんに罹患している子どもの日常生活の注意点について 	
	③ケア・援助論	3時間	急変時の対応	小児のBLS技術を学び、在宅における緊急時の対応方法を、具体的にイメージ化できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・小児のBLS技術が実践できる ・小児の緊急時の対応について具体的にイメージできる 	講義・演習(2時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・小児のBLS技術が実践できるように演習を実施する ・小児の緊急時の対応について具体的にイメージできるように事例を交え、ポイントを説明 	
3日目	④地域で活動する他職種について	2時間	他職種の理解とチーム医療について	他職種の役割と機能を理解し、チームで支援するために必要な方策について学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・他職種の役割と機能について理解する ・他職種との連携について理解する ・チームで支援する際の看護師の役割について検討できる 	講義・演習(ディスカッション・ロールプレイなど)	<ul style="list-style-type: none"> ・他職種の役割と機能について ・他職種との連携について ・チームで支援する際の看護師の役割について検討する(他の医療者から、訪問看護師がどのような役割や機能を持っているのか) 	チームで支援する際の看護師の役割について、それぞれの経験を踏まえ、考える。チームワークが上手いといった事例や上手いかわかった事例をもとに、看護師はどのような役割を持つのか、どのような機能を果たすのかを考える。
	①重症心身障害・小児医療概論	3時間	子どもの権利と倫理のかかわり	子どもの権利を理解し、倫理的な関わりについて学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの権利を理解する ・倫理的な関わりについて考えることができる 	講義・演習(ディスカッション)	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法における子どもの権利について ・子どもの権利条約について ・倫理の概念 ・看護協会における倫理指針について ・日常のケア場面における倫理的配慮・ケアを事例を示す 	看護場面における子どもへの倫理的な配慮についてディスカッションをする。例えば、「治療についての意思決定」「ケア時のプライバシーの保護」「ケア提供時の同意」などについて、考える。
⑤施設等でのケアの実践	1日	診療所におけるケアの実践を学ぶ	小児在宅医療を支える地域医療の実践を学ぶ	診療所において見学実習				
	1日	NICUにおける実際のケアを学ぶ	NICUの機能・役割を理解し、NICUにおける看護の実践を学ぶ	NICUにおいて見学実習				
	1日	医療型入所施設・療養介護における実際のケアを学ぶ	入所施設の機能・役割を理解し、施設における看護の実践を学ぶ	入所施設において見学実習	<ul style="list-style-type: none"> ・同行訪問、同行見学を実施する ・訪問研修、見学時間などは、各施設で調整する ・各施設でオリエンテーションを受ける(各施設の役割、機能、従事する職員数、地域の特性、契約利用者の状況などの講義を受ける) 			
	2日	訪問看護の実践を学ぶ	小児訪問看護の機能・役割を理解し、家庭におけるケアの実践を学ぶ	訪問看護ステーションにおいて見学実習				
	1日	特別支援学校における実際のケアを学ぶ	特別支援学校の機能・役割を理解し、学びの場における看護の実践を学ぶ	特別支援学校において見学実習				
	1日	通所施設における実際のケアを学ぶ	通所施設の機能・役割を理解し、日中活動の場における看護の実践を学ぶ	通所施設において見学実習				

〈その他〉

・実際に関わっている訪問看護師の話や映像・スライド等が効果的。

小児訪問看護研修プログラム：スペシャリストを目指そう（スキルアップ編）「活動すること」

1 日 目	カテゴリー	時間	講義名	目的	到達目標	学習方法	具体的な内容	
							講義	演習等
1 日 目	①重症心身障害・小児医療概論	3時間	最近の小児医療・重症心身障害児の医療・看護の動向	小児医療・重症心身障害児医療・看護の動向と訪問看護の必要性を理解し、子どもと家族をとりまく現状の課題について検討する。	<ul style="list-style-type: none"> 子どもをとりまく医療と看護の動向、環境について理解できる 重症心身障害児の医療について理解できる 小児訪問看護における看護の課題を検討できる 	講義・演習（ディスカッション）	<ul style="list-style-type: none"> 小児医療の現状・課題とは 医療的ケアとは（概念・状態像など） 小児医療における重症心身障害児の医療の現状と課題 重症心身障害児の高齢化と移行期ケアについて 小児医療で活用できる医療費制度について（政策や取り組みなどを含む） 	小児訪問看護における看護の課題についてディスカッションをする。各自のステーションあるいは、訪問看護師が抱える小児訪問看護の知識や技術などに十分でない状況があれば、それらを提示しながら話し合いを進行する。
		1時間	耳、鼻の機能・耳鼻科疾患について学ぶ	耳、鼻の機能、耳鼻科疾患について理解し、治療に沿った援助方法を理解する	<ul style="list-style-type: none"> 耳、鼻の機能を理解する 耳鼻科疾患について理解する 耳鼻科疾患の治療方法について理解する 	講義	<ul style="list-style-type: none"> 耳、鼻の機能について 耳鼻科疾患について 耳鼻科疾患の治療方法について 	
		1時間	眼の機能・眼科疾患について学ぶ	眼の機能、眼科疾患について理解し、治療に沿った援助方法を理解する	<ul style="list-style-type: none"> 眼の機能を理解する 眼科疾患について理解する 眼科疾患の治療方法について理解する 	講義	<ul style="list-style-type: none"> 眼の機能について 眼科疾患について 眼科疾患の治療方法について 	
2 日 目	③ケア・援助論	4時間	小児リハビリテーション	子どもの身体の特徴をふまえたリハビリテーション内容について理解し、看護師が実施できる内容について学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> 筋緊張のケア（リラクゼーション、ポジショニング等）を理解できる ROMエクササイズの内容が理解できる 	講義・演習	<ul style="list-style-type: none"> 筋緊張のケア（リラクゼーション、ポジショニング等）について ROMエクササイズの内容について 	
		2時間	福祉用具	小児に特徴的な福祉用具の機能について理解し、正しく使用ができるよう注意点を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> 福祉用具の特徴について理解する 用具を着着する際の注意点について理解できる 	講義	<ul style="list-style-type: none"> 福祉用具の特徴について（おとなが使用する用具とは違いがわかる座位保持やバギーなど） 用具を着着する際の注意点について 	
3 日 目	②医療・看護の知識各論	2時間	てんかん発作について	てんかん発作の病態と治療について学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> てんかんの原因、診断、治療について理解する てんかん発作の観察ポイントについて理解する てんかん発作を予防するための日常生活管理について理解する 	講義	<ul style="list-style-type: none"> てんかんの原因、診断、治療について てんかん発作の観察ポイントについて てんかん発作を予防するための日常生活管理について 	
		2時間	発達障害の理解と対応	小児の発達・生理学的変化を理解し、発達障害とその対応を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 発達障害の原因、分類が理解できる 発達障害を持つ子どもとその家族への適切な対応や、援助の方法がわかる 	講義	<ul style="list-style-type: none"> 発達障害とは、原因とメカニズムについて 発達障害がある子どもとその家族への対応について 	
		1時間	児童相談所の機能と役割について	児童相談所の機能・役割を学び、小児、障害児者の虐待がおこる背景や関わりの実際を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 児童相談所の機能・役割がわかる 小児虐待に対する児童相談所の関わりが理解できる 小児、障害児者の虐待がおこる背景および家族のアセスメントについて理解できる 	講義	<ul style="list-style-type: none"> 児童相談所の機能・役割について 小児虐待に対する児童相談所の関わりについて 小児、障害児者の虐待がおこる背景および家族のアセスメントについて 	
3 日 目	④地域で活動する他職種について	1時間	特別支援学校における看護の役割について	特別支援学校の機能・役割、学びの場で実践される医療的ケアの実際を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援学校の機能・役割について理解できる 学びの場で実践される医療的ケアの実際、看護職の役割について理解できる 	講義	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援学校の機能・役割について 学びの場で実践される医療的ケアの実際、看護職の役割について 	
		1日	診療所におけるケアの実際を学ぶ	小児在宅医療を支える地域医療の実際を学ぶ	診療所において見学実習			
5 日 目	⑤施設等でのケアの実際	1日	NICUにおける実際のケアを学ぶ	NICUの機能・役割を理解し、NICUにおける看護の実際を学ぶ	NICUにおいて見学実習			
		1日	医療型入所施設・療養介護における実際のケアを学ぶ	入所施設の機能・役割を理解し、施設における看護の実際を学ぶ	入所施設において見学実習	<ul style="list-style-type: none"> 同行訪問、同行見学を実施する 訪問研修、見学時間などは、各施設で調整する 各施設でオリエンテーションを受ける（各施設の役割、機能、従事する職員数、地域の特性、契約利用者の状況などの講義を受ける） 		
		2日	訪問看護の実際を学ぶ	小児訪問看護の機能・役割を理解し、家庭におけるケアの実際を学ぶ	訪問看護ステーションにおいて見学実習			
		1日	特別支援学校における実際のケアを学ぶ	特別支援学校の機能・役割を理解し、学びの場における看護の実際を学ぶ	特別支援学校において見学実習			
		1日	通所施設における実際のケアを学ぶ	通所施設の機能・役割を理解し、日中活動の場における看護の実際を学ぶ	通所施設において見学実習			
		1日	診療所における実際のケアを学ぶ	診療所における看護の実際を学ぶ	診療所において見学実習			

（その他）

・実際に関わっている訪問看護師の話や映像・スライド等が効果的。

小児訪問看護研修プログラム：スペシャリストを目指そう（スキルアップ編）「呼吸すること」

	カテゴリー	時間	講義名	目的	到達目標	学習方法	具体的な内容	
							講義	演習等
1日目	②医療・看護の知識各論	3時間	呼吸障害について	呼吸のメカニズムを理解し、呼吸障害に対する治療とその看護について理解する	<ul style="list-style-type: none"> 呼吸のメカニズムを理解する 呼吸障害のメカニズムを理解する 呼吸障害に対する治療について理解する 	講義	<ul style="list-style-type: none"> 呼吸のメカニズムについて 呼吸障害のメカニズムについて 呼吸障害に対する治療について（看護における注意点なども含める） 	
		3時間	心疾患（心奇形）について	生まれつき心臓の形と機能に異常のある「先天性心疾患」について理解し、治療に沿った援助方法を理解する	<ul style="list-style-type: none"> 先天性心疾患について理解する 先天性心疾患の治療方法について理解する 先天性心疾患の日常生活の注意点について理解する 	講義	<ul style="list-style-type: none"> 先天性心疾患について 先天性心疾患の治療方法について（手術の方法なども含む） 先天性心疾患の日常生活の注意点について 	
2日目	②医療・看護の知識各論	2時間	循環器について	循環器の機能、疾患について理解し、治療に沿った援助方法を理解する	<ul style="list-style-type: none"> 循環器機能を理解する 循環器疾患について理解する 循環器疾患の治療方法について理解する 	講義	<ul style="list-style-type: none"> 循環機能について 循環器疾患について 循環器疾患の治療方法について 心臓の冠動脈に病変を残す「川崎病」、学校検診で見つかる「不整脈」や「心筋症」について 	
	③ケア・援助論	4時間	呼吸障害の理解と肺理学療法	呼吸障害のある障害児者の観察アセスメントを学び、安楽な呼吸のための効果的なポジショニング、リラクゼーションの技術を習得する。	<ul style="list-style-type: none"> 呼吸のメカニズムを理解し、呼吸障害の評価ができる 効果的なポジショニング、リラクゼーションについて理解し、実践することができる 	講義・演習	<ul style="list-style-type: none"> 呼吸のメカニズムを理解し、呼吸障害の評価のポイントについて 効果的なポジショニング、リラクゼーションについて 	
3日目	③ケア・援助論	3時間	呼吸障害の看護について	呼吸障害に対する観察ポイント・看護について理解する	<ul style="list-style-type: none"> 呼吸障害に対する観察ポイントが理解できる ネブライザーや在宅酸素吸入器などの使用方法が理解できる 安楽に呼吸するための援助方法が理解できる 	講義・演習	<ul style="list-style-type: none"> 人工呼吸器のアラームへの対処方法などについて 気管切開部への対応について ネブライザーや在宅酸素吸入時の注意点について 吸引の際の注意点について 	
		1時間	人工呼吸器の基礎	人工呼吸器についての基本的知識と、安全な人工呼吸器管理に必要な知識を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 人工呼吸器の原理が理解できる 人工呼吸器管理中の注意点、看護について理解できる 	講義・演習	<ul style="list-style-type: none"> 人工呼吸器の原理について 人工呼吸器管理中の注意点、看護について 	
	④地域で活動する他職種について	1時間	在宅生活を支える制度や社会資源について	在宅生活を支える制度やサービスを理解し、ケアに活用する方法を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 療育施設（医療型障害児入所施設・外来のみの療育センター）の役割・機能を理解できる 訪問看護師の役割について理解できる 障害者総合支援法とサービスについて理解できる 小児の在宅療養を支援する制度について理解できる 地域社会の資源の活用について検討できる 	講義	<ul style="list-style-type: none"> 療育施設（医療型障害児入所施設・外来のみの療育センター）の役割・機能について 訪問看護師の役割について（家族とのかかわりについて重点を置く） 利用者や家族を支えている関係機関の概要はあったほうが良い。学校や教育にも関連する。 小児の在宅療養を支援する制度について（職種や制度の内容） 	
		1時間	児童相談所の機能と役割について	児童相談所の機能・役割を学び、小児、障害児者の虐待がおこる背景や関わりの実態を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 児童相談所の機能・役割がわかる 小児虐待に対する児童相談所の関わりが理解できる 小児、障害児者の虐待がおこる背景および家族のアセスメントについて理解できる 	講義	<ul style="list-style-type: none"> 児童相談所の機能・役割について 小児虐待に対する児童相談所の関わりについて 小児、障害児者の虐待がおこる背景および家族のアセスメントについて 	
⑤施設等でのケアの実践	1日	診療所におけるケアの実践を学ぶ	小児在宅医療を支える地域医療の実践を学ぶ	診療所において見学実習				
	1日	NICUにおける実際のケアを学ぶ	NICUの機能・役割を理解し、NICUにおける看護の実践を学ぶ	NICUにおいて見学実習				
	1日	医療型入所施設・療養介護における実際のケアを学ぶ	入所施設の機能・役割を理解し、施設における看護の実践を学ぶ	入所施設において見学実習	<ul style="list-style-type: none"> 同行訪問、同行見学を実施する 訪問研修、見学時間などは、各施設で調整する 各施設でオリエンテーションを受ける（各施設の役割、機能、従事する職員数、地域の特性、契約利用者の状況などの講義を受ける） 			
	2日	訪問看護の実践を学ぶ	小児訪問看護の機能・役割を理解し、家庭におけるケアの実践を学ぶ	訪問看護ステーションにおいて見学実習				
	1日	特別支援学校における実際のケアを学ぶ	特別支援学校の機能・役割を理解し、学びの場における看護の実践を学ぶ	特別支援学校において見学実習				
	1日	通所施設における実際のケアを学ぶ	通所施設の機能・役割を理解し、日中活動の場における看護の実践を学ぶ	通所施設において見学実習				

〈その他〉

・実際に関わっている訪問看護師の話や映像・スライド等が効果的。

小児訪問看護研修プログラム：スペシャリストを目指そう（スキルアップ編）「食べること」

	カテゴリー	時間	講義名	目的	到達目標	学習方法	具体的な内容	
							講義	演習等
1日目	①重症心身障害・小児医療概論	2時間	重症心身障害児医療の歴史・重症心身障害児の概念・診断	重症心身障害児医療の歴史、概念、定義を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> 重症心身障害児医療の歴史の変遷がわかる 重症心身障害児の概念が理解できる 重症心身障害児の診断(大島分類など)が理解できる 	講義	<ul style="list-style-type: none"> 重症心身障害児の医療の歴史の変遷について 重症心身障害児の概念 重症心身障害児の診断(大島分類について) 	
	②医療・看護の知識各論	2時間	消化器疾患と栄養障害について	栄養障害が発生する消化器の病態について理解し、それらに対する援助方法がわかる	<ul style="list-style-type: none"> 消化のメカニズムを理解する 消化器疾患の病態を理解する 消化器疾患への治療方法について理解する 栄養のメカニズムを理解する 	講義	<ul style="list-style-type: none"> 消化のメカニズムについて 消化器疾患の病態について 消化器疾患への治療方法について 栄養のメカニズムについて 	
		2時間	摂食嚥下障害について学ぶ	摂食嚥下障害の病態生理について学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> 摂食嚥下のメカニズム、解剖生理が理解できる 摂食嚥下障害の原因、病態が理解できる 摂食嚥下障害の治療・対応方法が理解できる 	講義	<ul style="list-style-type: none"> 摂食嚥下のメカニズム、解剖生理について 摂食嚥下障害の原因、病態について 摂食嚥下障害の治療・対応方法について 	
2日目	②医療・看護の知識各論	2時間	重症心身障害児者となる疾患・状態像となる疾患・状態像の理解と対応	重症心身障害児者となる疾患・状態像を理解し、その対応、かかわりについて学びを深める。	<ul style="list-style-type: none"> 重症心身障害児者となる疾患、状態像と合併症について理解できる 重症心身障害児の状態像に対応した治療方法やかかわりについて理解できる 	講義	<ul style="list-style-type: none"> 重症心身障害児の原因となる疾患の合併症や治療について(出生前・出生時から新生時期・新生児期から18歳までの時期に分けた原因) 重症心身障害児となる疾患をもつ子どもの成長発達の実態と対応について(事例をまじえて) 	
		1時間	排便障害について学ぶ	排便のメカニズムを理解し、排便障害の治療に沿った援助方法を理解する	<ul style="list-style-type: none"> 排便のメカニズムが理解できる 排便障害の病態が理解できる 排便障害への治療方法が理解できる 	講義	<ul style="list-style-type: none"> 排便のメカニズムについて 排便障害の病態について 排便障害への治療方法について 	
		1時間	排尿障害について学ぶ	排尿のメカニズムを理解し、排尿障害の治療に沿った援助方法を理解する	<ul style="list-style-type: none"> 排尿のメカニズムが理解できる 排尿障害の病態が理解できる 排尿障害への治療方法が理解できる 排尿障害の援助方法について理解する 	講義	<ul style="list-style-type: none"> 排尿のメカニズムについて 排尿障害の病態について 排尿障害への治療方法について 排尿障害の援助方法について 	
	④地域で活動する他職種について	2時間	相談支援と連携	相談支援の役割・機能について理解し、適切に制度を活用できるように学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> 相談支援の役割・機能について理解する 相談支援員の役割・機能について理解する 相談支援員と連携するための方策を理解する 	講義	<ul style="list-style-type: none"> 障害福祉サービス等を申請した障害者(児)について、サービス等利用計画の作成、及び支給決定後のサービス等利用計画の見直し(モニタリング)、計画相談支援給付費又は障害児相談支援給付費の支給について 子どもや家族がどのように病気や障害などを乗り越える力を持っているのか、事例を交えて説明 	
3日目	③ケア・援助論	3時間	摂食嚥下障害のある患者への援助方法	摂食嚥下障害がある利用者への援助方法を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> 摂食嚥下障害がある利用者の摂食介助時の注意点が理解できる 摂食嚥下障害がある利用者の摂食介助を演習できる 	講義・演習	<ul style="list-style-type: none"> 摂食嚥下障害がある利用者の摂食介助時の注意点について 	
		3時間	口腔衛生について	良好な口腔衛生を維持するための援助方法を理解する	<ul style="list-style-type: none"> 口腔の解剖生理と機能について理解できる 清潔を保つ口腔ケアの方法がわかる 	講義・演習	<ul style="list-style-type: none"> 口腔の解剖生理と機能について 清潔を保つ口腔ケアの方法と注意点について 	
⑤施設等でのケアの実践	1日	診療所におけるケアの実践を学ぶ	小児在宅医療を支える地域医療の実践を学ぶ	診療所において見学実習				
	1日	NICUにおける実際のケアを学ぶ	NICUの機能・役割を理解し、NICUにおける看護の実践を学ぶ	NICUにおいて見学実習				
	1日	医療型入所施設・療養介護における実際のケアを学ぶ	入所施設の機能・役割を理解し、施設における看護の実践を学ぶ	入所施設において見学実習	<ul style="list-style-type: none"> 同行訪問、同行見学を実施する 訪問研修、見学時間などは、各施設で調整する 各施設でオリエンテーションを受ける(各施設の役割、機能、従事する職員数、地域の特性、契約利用者の状況などの講義を受ける) 			
	2日	訪問看護の実践を学ぶ	小児訪問看護の機能・役割を理解し、家庭におけるケアの実践を学ぶ	訪問看護ステーションにおいて見学実習				
	1日	特別支援学校における実際のケアを学ぶ	特別支援学校の機能・役割を理解し、学びの場における看護の実践を学ぶ	特別支援学校において見学実習				
	1日	通所施設における実際のケアを学ぶ	通所施設の機能・役割を理解し、日中活動の場における看護の実践を学ぶ	通所施設において見学実習				

（４）小児訪問看護情報交換会の開催

小児訪問看護研修の普及のため、小児訪問看護情報交換会を開催した。詳細は「Ⅱ 2）小児訪問看護情報交換会の開催」参照。

（５）小児訪問看護研修会受講者へのアンケート調査

小児訪問看護研修プログラムの評価・見直しを行うため、小児訪問看護研修受講者を対象としたアンケート調査を実施した。詳細は「Ⅱ 3）小児訪問看護研修会受講者へのアンケート調査」参照。

Ⅱ 令和3年度事業（令和2年度分）

1) 小児訪問看護研修プログラムを用いた研修会の開催

(1) いのちを支える

小児訪問看護研修会「いのちを支える」は以下の要領で開催した。

- **募集期間**： 6月1日～8月29日（配信期間：8月1日～10月30日）
- **対 象**： 訪問看護に従事する看護師等
- **受講料**： 会員 43,000円 → 18,000円 非会員 83,000円 → 36,000円
- **受講可能期間**： 2ヵ月間（オンデマンド配信のみ）
- **ライブ配信**： 9月10日（金）10時00分～17時10分
10月22日（金）9時30分～16時30分
- **プログラム**： 次頁参照

小児訪問看護研修会「いのちを支える」プログラム

研修方法		講義名	講師	講義時間	講義内容	到達目標(SBO)	一般目標(GIO)	
オンデマンド配信		小児がんについて	医療法人財団はるたか会 理事長 前田 浩利 氏	3時間	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもに特徴的ながんについて ・がんの治療方法について ・がん罹患している子どもの日常生活の注意点について 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもに特徴的ながんについて理解する ・がんの治療方法について理解する ・がん罹患している子どもの日常生活の注意点について理解する 		
ライブ配信	9月10日 (金)	10時00分～12時00分	よりよく生き抜くための重症心身障害児者の看護	都立府中療育センター緩和ケア認定看護師 荒谷 智子 氏	2時間	<ul style="list-style-type: none"> ・疾病により身体機能の危機的状態にある(幼少期の身体機能の未熟さによる症状や進行性疾患による症状や病態)、および成長発達・加齢に伴い身体機能の変化によって表出する症状の悪化(側弯などによる呼吸障害、嚥下機能の低下による誤嚥性肺炎の繰り返し)などの重症心身障害児者の病態について ・重症心身障害児者の治療の選択、家族の思いについて ・終末期に向かうあるいは終末期にある重症心身障害児者とその家族の看護(痛みのケア・呼吸を安楽にするケア・家族と共に過ごすためのケア・家族への予後の説明など事例を交えた解説) 	<ul style="list-style-type: none"> ・疾病により身体機能の危機的状態にある、および成長発達・加齢に伴い終末期に向う重症心身障害児者の病態が理解できる ・重症心身障害児者の治療の選択、家族の思いを理解することができる ・終末期に向かうあるいは終末期にある重症心身障害児者とその家族の支援について考えることができる 	終末期や急変時など「命を支える」小児訪問看護を実践するための知識・技術・態度を習得する。
		13時00分～14時30分	他職種との連携とチーム医療について	浜松市発達医療総合福祉センター相談支援事業所シグナル尾関 ゆかり 氏	1時間30分	<ul style="list-style-type: none"> ・他職種の役割と機能について ・他職種との連携について ・チームで支援する際の看護師の役割について検討する(他の医療者から、訪問看護師がどのような役割や機能を持っていると考えられているのか) 	<ul style="list-style-type: none"> ・疾病や障害をもつ小児を支える家族の現状を理解し、支援のありかたを学ぶ。 	
		14時40分～17時10分	子どもの権利と倫理のかかわり	心身障害児総合医療療育センター仁宮 真紀 氏	2時間30分	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法における子どもの権利について ・子どもの権利条約について ・倫理の概念 ・看護協会における倫理指針について ・日常のケア場面における倫理的配慮・ケアを事例を示す 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの権利を理解する ・倫理的な関わりについて考えることができる 	
		9月10日 (金)	9時30分～12時30分	家族の思いに寄り添う看護	訪問看護ステーションさんさん森下 由佳 氏	3時間	<ul style="list-style-type: none"> ・疾病や障害をもつ子どもの家族及び介護者の想いがわかる(主たる介護者となる家族の思いの背景が理解できるように、事例を交えて説明) ・重症心身障害児者の家族の理解を深め、支援について検討できるようにするために、ロールプレイを実施し、その後、ディスカッションをする ・悲嘆の過程について ・家族の障害受容に対する支援方法について、事例を交えて説明 	
	10月22日 (金)	13時30分～16時30分	急変時の対応	心身障害児総合医療療育センター川崎 まこと 氏	3時間	<ul style="list-style-type: none"> ・小児のBLS技術が実践できるように演習を実施する ・小児の緊急時の対応について具体的にイメージできるように事例を交え、ポイントを説明 	<ul style="list-style-type: none"> ・小児のBLS技術が実践できる ・小児の緊急時の対応について具体的にイメージできる 	

ライブ配信でのグループワークの様子

1



2



3



4



5



6



7



ライブ配信での演習の様子

1



2



3



4



5



6



7



8



(2) 活動すること

小児訪問看護研修会「活動すること」は以下の要領で開催した。

- **募集期間**： 7月1日～8月29日（配信期間：9月1日～10月31日）
- **対象**： 訪問看護に従事する看護師等
- **受講料**： 会員 43,000円 → 18,000円 非会員 83,000円 → 36,000円
- **受講可能期間**： 2ヵ月間（オンデマンド配信のみ）
- **ライブ配信**： 10月23日（土）13時30分～16時30分
- **対面研修**： 12月11日（土）13時30分～16時30分
於 AP日本橋（東京都中央区日本橋3-6-2 日本橋フロント6F）
- **プログラム**： 次頁参照

小児訪問看護研修会「活動すること」プログラム

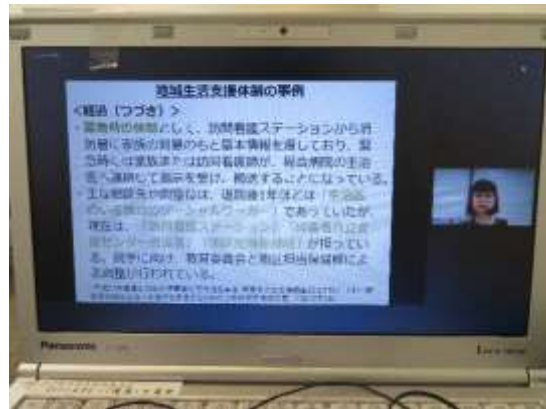
研修方法		講義名	講師	講義時間	講義内容	到達目標(SBO)	一般目標(GIO)
オンデマンド配信		耳鼻科疾患について学ぶ	浜松医科大学 耳鼻咽喉科頭頸部外科 喜寿淳哉 氏	53分	・耳鼻科疾患について ・耳鼻科疾患の治療方法について	・耳鼻科疾患について理解する ・耳鼻科疾患の治療方法について理解する	小児訪問看護の実践に役立つ「呼吸すること・食べること・活動すること」に関連する知識・技術・態度を習得する。
		眼の機能・眼科疾患について学ぶ	杏林大学医学部附属病院 眼科 講師 鈴木由美 氏	47分	・眼の機能について ・眼科疾患について ・眼科疾患の治療方法について	・眼の機能を理解する ・眼科疾患について理解する ・眼科疾患の治療方法について理解する	
		睡眠障害について	心身障害児総合医療療育センター 研修・研究部長 中谷 勝利 氏	1時間11分	・睡眠のメカニズムについて ・睡眠障害のメカニズムについて ・睡眠障害の治療について ・睡眠障害への援助方法について	・睡眠のメカニズムについて理解する ・睡眠障害のメカニズムについて理解する ・睡眠障害の治療について理解する ・睡眠障害への援助方法について理解する	
		てんかん発作について	心身障害児総合医療療育センター 研修・研究部長 中谷 勝利 氏	2時間42分	・てんかんの原因、診断、治療について ・てんかん発作の観察ポイントについて ・てんかん発作を予防するための日常生活管理について	・てんかんの原因、診断、治療について理解する ・てんかん発作の観察ポイントについて理解する ・てんかん発作を予防するための日常生活管理について理解する	
		発達障害の理解と対応	心身障害児総合医療療育センター 小児科 米山 明 氏	2時間48分	・発達障害とは、原因とメカニズムについて ・発達障害がある子どもとその家族への対応について	・発達障害の原因、分類が理解できる ・発達障害を持つ子どもとその家族への適切な対応や、援助の方法がわかる	
		児童相談所の機能と役割について	千葉県柏児童相談所 所長 渡邊 直 氏	1時間2分	・児童相談所の機能・役割について ・小児虐待に対する児童相談所の関わりについて ・小児、障害児者の虐待がおこる背景および家族のアセスメントについて	・児童相談所の機能・役割がわかる ・小児虐待に対する児童相談所の関わりが理解できる ・小児、障害児者の虐待がおこる背景および家族のアセスメントについて理解できる	
		特別支援学校における看護の役割について	はみんぐ訪問看護ステーション 堀 真美子 氏	48分	・特別支援学校の機能・役割について ・学びの場で実践される医療的ケアの実際、看護職の役割について	・特別支援学校の機能・役割について理解できる ・学びの場で実践される医療的ケアの実際、看護職の役割について理解できる	
		福祉用具・装具について	東京小児療育病院 リハビリテーション科長 丸森睦美 氏	2時間22分	・福祉用具の特徴について(おとなが使用する用具とは違いがわかる座位保持やバギーなど) ・用具を装着する際の注意点について	・福祉用具の特徴について理解する ・用具を装着する際の注意点について理解できる	
ライブ配信	10/23(土) 13時30分～16時30分	最近の小児医療・重症心身障害児の医療・看護の動向	順天堂大学大学院医療看護学研究所 倉田 慶子 氏	3時間	・小児医療の現状・課題とは ・医療的ケアとは(概念・状態像など) ・小児医療における重症心身障害児の医療の現状と課題 ・重症心身障害児の高齢化と移行期ケアについて ・小児医療で活用できる医療費制度について(政策や取り組みなどを含む)	・子どもをとりまく医療と看護の動向、環境について理解できる ・重症心身障害児の医療について理解できる ・小児訪問看護における看護の課題を検討できる	
対面研修	12月11日(土) 13時30分～16時30分	小児リハビリテーション	東京小児療育病院 リハビリテーション科長 丸森睦美 氏	3時間	・筋緊張のケア(リラクゼーション、ポジショニング等)について ・ROMエクササイズの内容について	・筋緊張のケア(リラクゼーション、ポジショニング等)を理解できる ・ROMエクササイズの内容が理解できる	

ライブ配信でのグループワークの様子

1



2



3



4



対面研修での演習の様子



2) 小児訪問看護情報交換会の開催

小児訪問看護を行う訪問看護師を増やすこと、小児訪問看護を提供する訪問看護ステーションを増やすことを目的に、小児訪問看護の経験のない看護師等や小児訪問看護を始めて困っている看護師等を対象として、小児訪問看護情報交換会を開催した。小児訪問看護情報交換会の開催要領は以下のとおり。

小児訪問看護情報交換会 開催チラシ

Supported by 

第3回 小児訪問看護情報交換会

Let's try! 小児の訪問看護

～小児訪問看護の現状を知ろう～



主催：全国訪問看護事業協会
 開催日：令和3年7月10日（土）13:00～16:00
 会場：ZOOMによるWeb配信 定員：50名 参加費：5000円
 対象者：小児訪問看護の経験のない看護師等 小児訪問看護を始めて困っている看護師等

— 小児訪問看護の現状を知ろう —

少子化の中、高齢出産や周産期医療の進歩により、医療的デバイスを付けながらも在宅で療養生活を送る子どもたちが増えています。在宅療養する子どもと家族を支える医療・福祉のサービスは高齢者に比べて少なく、母親を主とした保護者の努力によって行われています。小児訪問看護の需要は非常に高く、子どもだけでなく家族も支えることのできる訪問看護の質と量の拡大は急務です。

そのような中、小児訪問看護を始めてみたけれど、中々、上手くいかず心が折れそうになってしまっている方はいらっしゃいませんか。そこで、今年は、「小児訪問看護の現状を知ろう」と題して、情報交換会を開催します。小児訪問看護の現状を具体的に知ること、小児訪問看護に踏み出せないでいる方も現場で困っている方にも、有意義な時間が過ごせると考えています。もちろん、毎年好評な利用者家族もお招きし、訪問看護との関わりについてお話いただけます。ご参加いただき、明日から新たな一歩を踏み出しましょう。

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響が続くため、ZOOMによる配信を行います。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

開会 挨拶：13:00～		全国訪問看護事業協会 副会長 高砂裕子
13:05～16:10		司会：全国訪問看護事業協会 井上多鶴子
13:05～13:45 (40分)	良くある小児訪問看護の特徴・つまずきポイント	訪問看護ステーションさんさん 代表理事 田中 歩 氏
13:45～13:55 (10分)	質疑応答	
13:55～14:25 (30分)	「共に生きる～家族にとっての拠り所になって～」	関口 好美 氏
14:25～14:55 (30分)	「僕の家には看護師さんがやって来た！」	鈴木 淳 氏
14:55～15:15 (20分)	話題提供「小児の訪問事例 こんなことがありました」	訪問看護ステーションひとみ 管理者 小宮山 日登美 氏
15:15～15:55 (40分)	GW「本日の話からの気づき・これからできそうなこと」	訪問看護ステーション緋江 管理者 尾田 優美子 氏
開会 挨拶：15:55～		訪問看護ステーション緋江 管理者 尾田優美子 氏

注意事項

- ・当協会のホームページからお申込みください。【 <https://www.zenhokan.or.jp> 】
- ・お申込み後、受講料の振込みについてメールでご連絡します。
- ・受講料の振込期限は、7月2日14時の着金までとなります。振込期限までに着金が確認できない場合は受講できません。
- ・ライブ配信1週間前（7月2日）に、ZoomのミーティングルームIDとパスワードをメールでご連絡します。

一般社団法人全国訪問看護事業協会 〒160-0022 東京都新宿区新宿1-3-12 杏丁目郵便館401
 TEL 03-3351-5898 FAX 03-3351-5938

ライブ配信によるグループワークの様子

1



2



3



4



3) 小児訪問看護研修会受講者へのアンケート調査

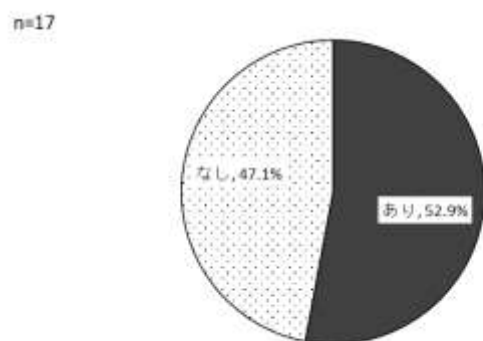
(1) いのちを支える

① 回答者属性について

回答のあった 17 人のうち、医療機関における小児看護及び小児訪問看護の経験が「あり」は 52.9%、「なし」が 47.1%であった。

医療機関における小児看護及び小児訪問看護の経験が「あり」の者における、小児看護の経験年数は平均 5.0 年、訪問看護事業所における小児訪問看護の経験年数は平均 4.6 年であった。また、訪問看護で担当した小児は「6～20 人」が 44.4%であった。

医療機関における小児看護・小児訪問看護の経験の有無



【経験がある場合】医療機関における小児看護の経験年数：平均 5.0 年 (n=5)

【経験がある場合】訪問看護事業所における小児訪問看護の経験年数：平均 4.6 年 (n=8)

【経験がある場合】訪問看護で担当した小児の人数 (n=9)

	人数	割合
0 人	1 人	11.1%
1～5 人	3 人	33.3%
6～20 人	4 人	44.4%
21 人以上	1 人	11.1%
合計	9 人	100.0%

② 小児がんについて

小児がんに関する講義における達成目標は以下の通りであった。

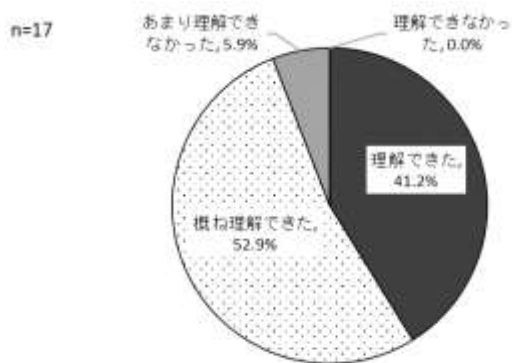
【達成目標】

- 子どもに特徴的ながんについて理解する
- がんの治療方法について理解する
- がんに罹患している子どもの日常生活の注意点について理解する

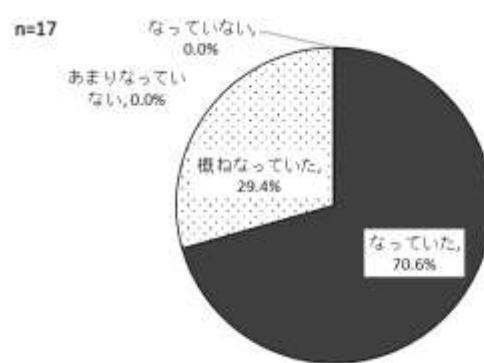
本講義について、講義内容について理解できたか尋ねたところ、「理解できた」が 41.2%、「概ね理解できた」が 52.9%、「あまり理解できなかった」が 5.9%であった。「理解できなかった」という回答はなかった。

また、到達目標を達成できる内容になっていたか尋ねたところ、「なっていた」が 70.6%、「概ねなっていた」が 29.4%であった。「あまりなっていない」「なっていない」という回答はなかった。

講義内容について理解できたか



到達目標を達成できる内容になっていたか



【講義内容に関する主な意見】 (回答なし)

【到達目標に関する主なご意見】 (回答なし)

③ よりよく生き抜くための重症心身障害児者の看護について

よりよく生き抜くための重症心身障害児者の看護に関する講義における達成目標は以下の通りであった。

【達成目標】

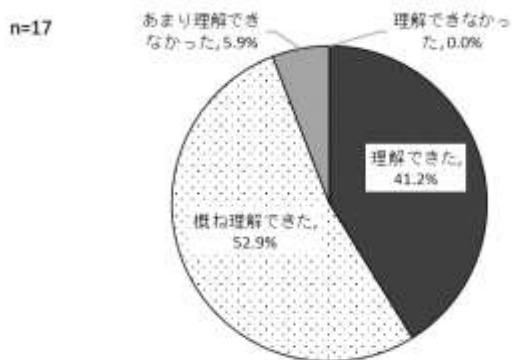
- 疾病により身体機能の危機的状態にある、および成長発達・加齢に伴い終末期に向かう重症心身障害児者の病態が理解できる
- 重症心身障害児者の治療の選択、家族の思いを理解することができる
- 終末期に向かうあるいは終末期にある重症心身障害児者とその家族の支援について考えることができる

本講義について、講義内容について理解できたか尋ねたところ、「理解できた」が 41.2%、「概ね理解できた」が 52.9%、「あまり理解できなかった」が 5.9%であった。「理解できなかった」という回答はなかった。

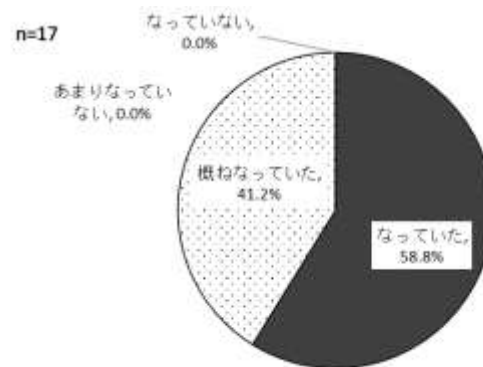
また、到達目標を達成できる内容になっていたか尋ねたところ、「なっていた」が 58.8%、「概ねなっていた」が 41.2%であった。「あまりなっていない」「なっていない」という回答はなかった。

グループワークで学びが深まったか尋ねたところ、「深まった」が 52.9%、「概ね深まった」が 35.3%、「深まらなかった」が 11.8%であった。

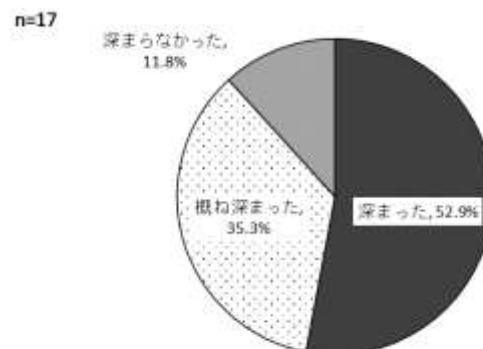
講義内容について理解できたか



到達目標を達成できる内容になっていたか



グループワークで学びは深まったか



【講義内容に関する主な意見】

- 訪問の調整が出来ず参加できなかった。勉強不足で資料だけではあまり理解を深める事ができなかった。

【到達目標に関する主な意見】 (回答なし)

【グループワークに関する主な意見】

深まった

- 各事例検討ができた。
- 私は小児の経験がなかったので、実際に小児の訪問に行っている方々の話はとても貴重だった。
- 意思決定の難しさが浮き彫りになった。高齢者では年だからと年のせいにして曖昧になるが、小児はなかなかそうならないので、より ACP が必要と考えさせられた。
- 小児訪問看護経験のある方々の話を傾聴し、現場の実際を学ぶことができた。
- いろいろな人の意見が聞けた。
- 自分のケアを振り返ることができた。
- 他のステーションでの対応の仕方が参考になった。
- 自分の意見との違いや、他の参加者の経験談などを共有できた。

概ね深まった

- 経験がないためついて行くのに必死だった。とても良い経験になった。これからも沢山教えて欲しいと思った。
- 経験のある方の実践が聞け、具体案も話してもらえて、わかりやすかった。
- 意思決定することは難しいことがたくさんあり、答えが出ないことやどうすることが良いのかなど迷うことがある。皆の話を聞かせてもらい、側に寄り添い少しでも何かの役に立てるような関わりができたと思う。
- 意思決定支援の難しさを感じているという事案があり、母親が抱えこんでしまうケースが多く、母親の期待と不安の狭間にいるということを理解し、とにかく話を聴き、説得はせず聞き出すことを心がけているという。病院ではない自宅での生活に直面する訪問看護のあり方を学ぶことができた。
- 小児看護経験に差があったため、グループメンバーの共感や理解が得られたか少し不安が残った。
- リモート会議に慣れていないせいか 活発な意見交換になりにくいのが、難点。

深まらなかった

- 参加していない。
- グループワークに参加できなかった。断片的に聴取することができた。

④ 他職種理解とチーム医療について

他職種理解とチーム医療に関する講義における達成目標は以下の通りであった。

【達成目標】

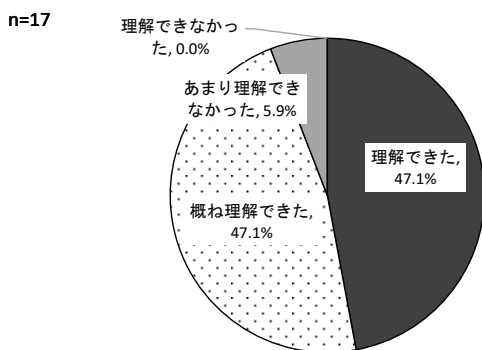
○ 疾病や障害をもつ小児を支える家族の現状を理解し、支援のありかたを学ぶ

本講義について、講義内容について理解できたか尋ねたところ、「理解できた」と「概ね理解できた」がそれぞれ 47.1%、「あまり理解できなかった」が 5.9%であった。「理解できなかった」という回答はなかった。

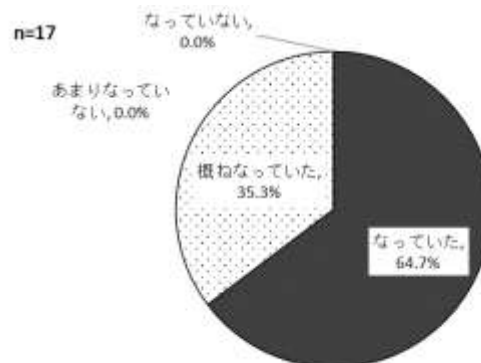
また、到達目標を達成できる内容になっていたか尋ねたところ、「なっていた」が 64.7%、「概ねなっていた」が 35.3%であった。「あまりなっていない」「なっていない」という回答はなかった。

グループワークで学びが深まったか尋ねたところ、「深まった」が 41.2%、「概ね深まった」が 47.1%、「深まらなかった」が 11.8%であった。

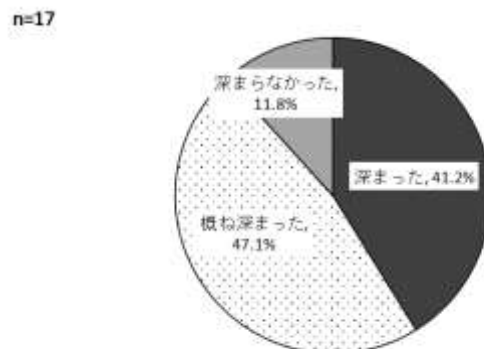
講義内容について理解できたか



到達目標を達成できる内容になっていたか



グループワークで学びは深まったか



【講義内容に関する主な意見】

- 訪問の調整が出来ず参加できなかった。勉強不足で資料だけではあまり理解を深める事ができなかった。

【到達目標に関する主な意見】 (回答なし)

【グループワークに関する主な意見】

深まった

- 他職種連携をするに当たって、壁にぶち当たったケースや、うまく行ったケースなど、様々なケースを聞くことができた。また、地域差があることも実感できた。これは、グループワークで話し合わなければ分からないことだったと思う。
- 制度の複雑さがよく分かった。看護師がこの状態では家族はもっと理解しがたく、こうした啓蒙活動を色々なところでして欲しいと感じた。またグループメンバーからも自分と同じような事で悩んでいる事がわかり問題点も浮き彫りにする事ができ、今後の解決対策に役立てたいと思う。
- 対象の子どもだけでなく周囲の家族も看護の対象であり、関わり方についても学ぶことができた。
- いろいろな人の意見が聞けた。
- 他のグループの発表が参考になった。
- 地域による差や事業所による方針の違いが理解できた。

概ね深まった

- 家族とのかかわり方が理解できた。
- 意見がまとまらない事もあった。経験が無い人が多いためと思う。
- 未経験分野だったので、質問をしてイメージができた。
- 支援相談や医療的ケア児のコーディネーターについて理解できた。
- 他の職種の方がどんなことが得意でどんなことで困るのかなど、知ることができた。訪問看護の得意なところ、弱いところなども他の方と相談し、協力しお互いが働きやすくなれば、それが子供や家族を支える力にもなると感じた。現実には難しいことだらけのように感じてしまいが、少しでも前に進めるようにやってみようと思う。
- 多職種との連携は思うほどうまくいっていないことが分かった。報告書だけの連携ではなく、顔の見える連携づくりをしていきたいという意見があった。1 家族にいくつもの事業所が関わると意見も多少違ってきてしまうのは仕方がないが、方向性を統一していくには、連携をし、患者にとって又家族にとってもいい方法で関わりあっていきたいと思った。
- リモート会議になれていないせいか 活発な意見交換になりにくいのが、難点。

深まらなかった

- 参加していない。
- グループワークに参加できなかった。断片的に聴取することができた。

⑤ 子どもの権利と倫理的かかわりについて

子どもの権利と倫理的かかわりに関する講義における達成目標は以下の通りであった。

【達成目標】

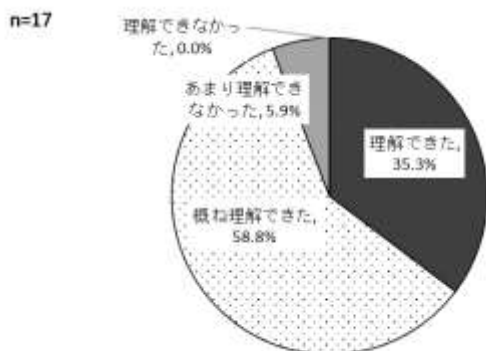
- 子どもの権利を理解する
- 倫理的な関わりについて考えることができる

本講義について、講義内容について理解できたか尋ねたところ、「理解できた」が 35.3%、「概ね理解できた」が 58.8%、「あまり理解できなかった」が 5.9%であった。「理解できなかった」という回答はなかった。

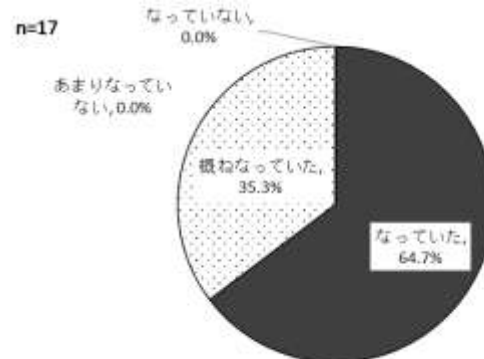
また、到達目標を達成できる内容になっていたか尋ねたところ、「なっていた」が 64.7%、「概ねなっていた」が 35.3%であった。「あまりなっていない」「なっていない」という回答はなかった。

グループワークで学びが深まったか尋ねたところ、「深まった」が 41.2%、「概ね深まった」が 47.1%、「深まらなかった」が 11.8%であった。

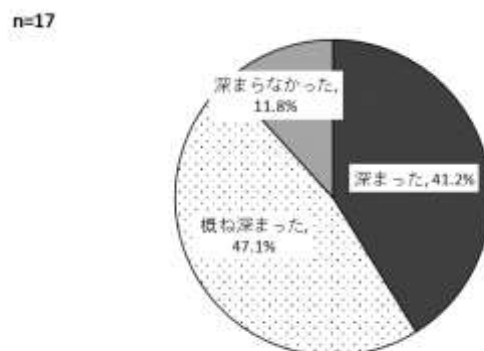
講義内容について理解できたか



到達目標を達成できる内容になっていたか



グループワークで学びは深まったか



【講義内容に関する主な意見】

- 訪問の調整が出来ず参加できなかった。勉強不足で資料だけではあまり理解を深める事ができなかった。

【到達目標に関する主な意見】 (回答なし)

【グループワークに関する主な意見】

深まった

- 私には小児の経験がなく、小児との関わりも教科書程度の知識しかなかった。しかし、実際がどうなのか？実際関わっておられる方々のお話を聞くことができ、よかった。
- ファシリテーターの話聞き、小児を担当する事の怖さが自然と無くなり前向きな気持ちになれた。
- 生きる権利、守られる権利、育つ権利、参加する権利がある。自分に関わりがあることへの意見の表明や表現の自由についての権利がある。重症児は表現から聞くことが難しい。
- いろいろな人の意見が聞けた。
- 子どもの権利や倫理について考えが深まった。
- 意見交換により、自身の考え方以外の捉え方について考える事が出来た。

概ね深まった

- 児が自己表現をする困難さと家族の想いについて理解できた。
- 時間が限られているため言えない事もあった。
- 悩ましい課題をみんなで共有できた。
- 改めて倫理的に考えるきっかけになった。家族がどんな選択をしても心からそれを支援していくことの難しさ、看護師としての倫理観があり寄り添うことの難しさを感じたことを思い出した。
- 難しいと思ったが、みんなと話したことを基にもっと深めていきたいと思う。
- 倫理を考える時、そこには必ず「価値の対立」が存在するという事を忘れないで関わりたいと思った。そして、共感ではなく共有するようにすると、看護者の心にもゆとりがもてるという言葉聴き、「～をしなければならい」という思いから解放することができた。全ての人はそれぞれの価値観があるので、私個人の価値観で関わることは避けようと思ひ、また他者の価値観はどういうことなのかに関わりを通して知り、看護に生かしていきたいと思った。
- リモート会議になれていないせいか 活発な意見交換になりにくいのが、難点。

深まらなかった

- 参加していない。
- グループワークに参加できなかった。断片的に聴取することができた。

⑥ 家族の思いに寄りそう看護について

家族の思いに寄りそう看護に関する講義における達成目標は以下の通りであった。

【達成目標】

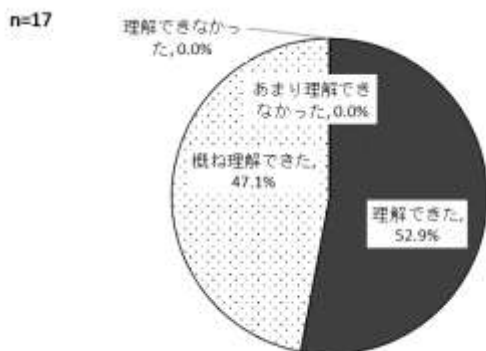
- 疾病や障害をもつ子どもの家族及び介護者の思いがわかる
- 重症心身障害児者の家族の理解を深め、支援について検討できる
- 悲嘆の過程について理解する
- 家族の障害受容に対する支援方法について理解する

本講義について、講義内容について理解できたか尋ねたところ、「理解できた」が 52.9%、「概ね理解できた」が 47.1%であった。「あまり理解できなかった」「理解できなかった」という回答はなかった。

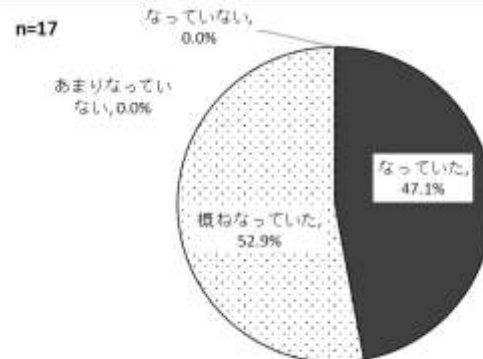
また、到達目標を達成できる内容になっていたか尋ねたところ、「なっていた」が 47.1%、「概ねなっていた」が 52.9%であった。「あまりなっていない」「なっていない」という回答はなかった。

グループワークで学びが深まったか尋ねたところ、「深まった」が 52.9%、「概ね深まった」が 41.2%、「深まらなかった」が 5.9%であった。

講義内容について理解できたか

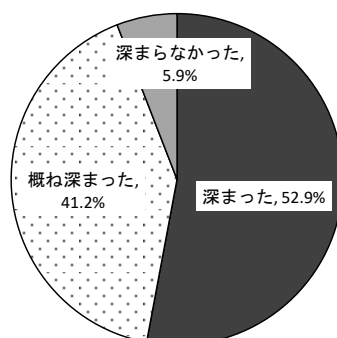


到達目標を達成できる内容になっていたか



グループワークで学びは深まったか

n=17



【講義内容に関する主な意見】 (回答なし)

【到達目標に関する主な意見】 (回答なし)

【グループワークに関する主な意見】

深まった

- 本人や家族の意思決定支援まで視野に入れ、グループワークで話し合いができたのがよかった。事例をもとに話し合ったが、実際の現場で経験した話も聞くことができ、学びを深めることができた。
- 事例を通して小児看護の経験がある人と無い人の意見を色々聞く事が出来て参考になった。
- 小児や家族に寄り添う、気持ちや想いを尊重する看護は大切である。
- いろいろな人の意見が聞けた。
- 今まで持ってきたターミナルケースや治療の選択に対する援助について改めて考えることができた。
- 皆さんが訪問で試行錯誤したり悩んだりしながら取り組まれていることがわかり、自分だけではないのだと安心したり、ここは修正が必要かな、ここはこれでいいのかな、と自分の行っている訪問を評価出来たり、励まされて明日からも頑張ろうという気持ちになった。
- 重心の子ども、家族の事例を通して、関わりの難しいケースでは、こちらサイドのケアにも重点を置く事の必要性が分かった。
- 経験や体験談を踏まえた考察や議論が出来た。

概ね深まった

- 家族の想いに寄り添う、グリーフケアも含めて理解できた。
- 子供の思い、家族の思い、関わる人の思いを大切にしておいていけるようにしたいと思った。
- 家族的な援助が必要であり、本来ならば本人の意見が聞けたらいいが、聞けないとなると、援助の仕方がわからなくなった。第一に介護者を優先的にしたら本人のことを考えていないようになってしまう。納得したかと言うと答えはまだわからない。
- 成人の悲嘆との違いを学べたと思う。
- 家族には、対象の患者と保護者、兄弟がいる。ということを目の当たりにするというのを改めて学んだ。病院での関わり以上に関わっていくのだなと思う事ができた。例えば気切にしても、その意思決定をするその多くは保護者となる。その決定するまでの過程で生じる葛藤を理解し、母親だけでなく、父親・兄弟の思いを聴き話し合いながら関わり続けていきたいと感じた。
- リモート会議になれていないせいか 活発な意見交換になりにくいのが、難点。

深まらなかった

- 経験年数の違いで、自身の振り返りになったが、深まりにはならなかった。

⑦ 急変時の対応について

急変時の対応に関する講義における達成目標は以下の通りであった。

【達成目標】

- 小児のBLS技術が実践できる
- 小児の緊急時の対応について具体的にイメージできる

本講義について、講義内容について理解できたか尋ねたところ、「理解できた」及び「概ね理解できた」がそれぞれ47.1%、「あまり理解できなかった」が5.9%であった。「理解できなかった」という回答はなかった。

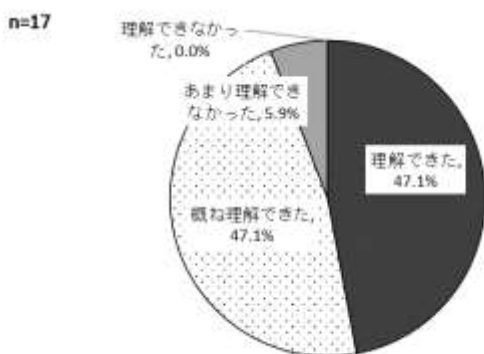
また、到達目標を達成できる内容になっていたか尋ねたところ、「なっていた」及び「概ねなっていた」がそれぞれ47.1%であった。「あまりなっていない」「なっていない」という回答はなかった。

グループワークで学びが深まったか尋ねたところ、「深まった」が35.3%、「概ね深まった」が52.9%、「深まらなかった」が11.8%であった。

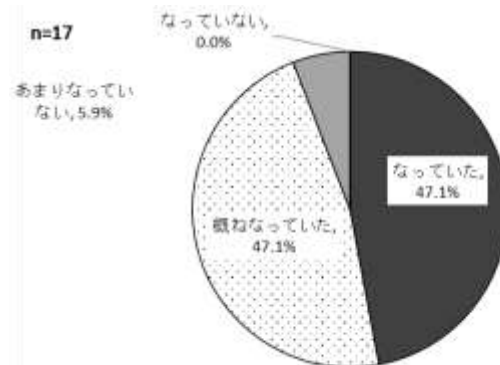
ライブ配信で実施した演習を通して技術の学びがあったか尋ねたところ、「大変学びがあった」が52.9%、「概ね学びがあった」が41.2%、「学びはなかった」が5.9%であった。

演習についての意見は、「ファシリテーターがフォローしてくれたのが良かった」が70.6%で最も多く、次いで「わからないところをすぐに聞くことができた」が41.2%、「細かい動きも確認できた」と「わからないところの質問がしにくかった」がそれぞれ29.4%であった。

講義内容について理解できたか



到達目標を達成できる内容になっていたか



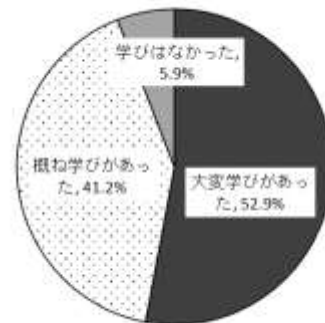
グループワークで学びは深まったか

n=17



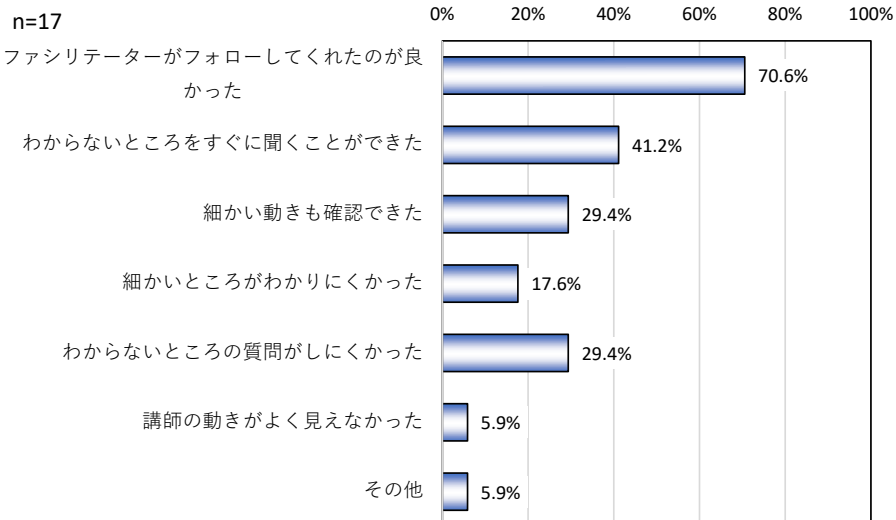
演習を通して技術の学びがあったか

n=17



※内訳としては、「ファシリテーターがフォローしてくれたのが良かった」が12件であった

演習についての意見（複数回答）



【講義内容に関する主な意見】

- 在宅での BLS を学びたかったが、事例が病院を想定されていたのでなぜなのか疑問が残った。

【到達目標に関する主な意見】 (回答なし)

【グループワークに関する主な意見】

深まった

- グループに分かれて少人数で教わる事で、質問もしやすく、細かい所まで教えてもらう事ができた。対面でない分、画面上ではわかりにくい部分もあったが、それを質問して教えてもらうことができたので良かった。
- 小児の救急対応について知らない事も多かったので参考になった。
- 講師の話を通して、具体的にイメージする事ができた。
- 実技でリモートとなると、不安であったが、同じ教材で、手元で触りながら行えて大変良かった。
- 実際にモデルを使うことによって、力加減やテンポについて学べた。

概ね深まった

- 現場で本当にどこまで出来るが分からない。
- 想像できる課題を経験ある方から具体的な意見がもらえてよかった。
- デモ機が少し大きく、実感がわきにくかった。
- ファシリテーターにわかりやすく説明してもらい、確認してもらって理解できた。
- 対面でなくても見ていて下さり、緊張しながらもシミュレーターが出来て実践につながれると思う。
- グループワークの意図がわかりづらかった。
- コロナの影響で仕方ないことだが、対面で演習できたら、もっと具体的なことを体験しコツなども掴めたのかなと思う。ステーションのみんなで練習しようと思う。
- グループの方の話が聞けてとても参考になり良かった。
- 実技を画面を通して講師に確認してもらうことが慣れず、黙々と一人で練習するという感じだった。

深まらなかった

- 経験が無いからとは言えないが、やはり見ているだけでは難しい。確かに病院は AED があるが、訪問看護をしている所では無いような気がする。小児の自宅にある設定ならばこのような援助ができるだろうとは思った。いつ何時何が起こるかわからないので、今からはすこしでも役に立つように頑張りたい。
- グループに分かれてモデルを使って実際に事例に沿って実施するのかと思っていたが、それさえもなかった。

【演習に関する主な意見】

- ファシリテーターが理解していなかった。

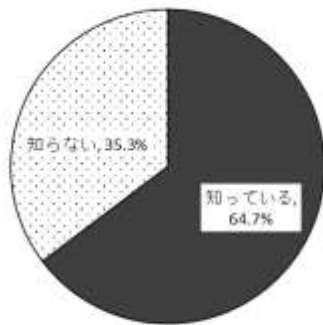
⑧ 小児訪問看護研修プログラムについて

小児訪問看護研修のプログラム（p.3～7 参照）が 5 編から構成されることについて知っているかどうか尋ねたところ、「知っている」が 64.7%、「知らない」が 35.3%であった。

5 つの編のうち、興味のある研修を尋ねたところ、「呼吸すること」が 88.2%で最も多く、次いで「食べること」が 70.6%、「活動すること」が 58.8%であった。

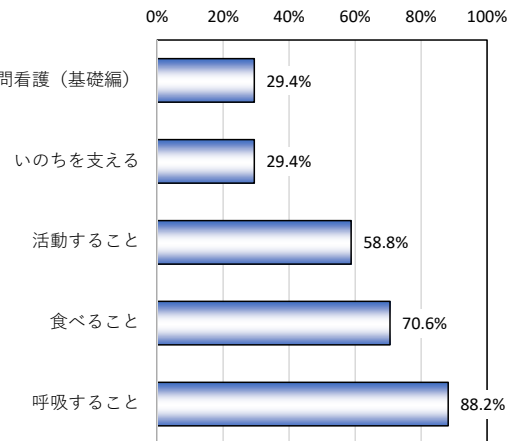
小児訪問看護研修プログラムの認知度

n=17



興味のある研修（複数回答）

n=17



アンケートでは、興味のある 5 つの編のうち、具体的内容についても上位 3 つまで尋ねた。1 位に挙げられた場合に 3 ポイント、2 位に挙げられた場合に 2 ポイント、3 位に挙げられた場合に 1 ポイントとして合計得点を算出した。

その結果、「はじめよう小児の訪問看護（基礎編）」の中では、「小児訪問看護の実際」が 9 ポイントで最も多く、次いで「子どもの成長発達とフィジカルアセスメント（演習あり）」が 8 ポイント、「重症心身障害児者の原因となる疾患・状態像の理解と対応」が 6 ポイントであった。

「はじめよう小児訪問看護（基礎編）」における興味のある研修内容（ポイント化）

興味のある研修内容	ポイント
小児訪問看護の実際	9 pt
子どもの成長発達とフィジカルアセスメント（演習あり）	8 pt
重症心身障害児者の原因となる疾患・状態像の理解と対応	6 pt
小児看護の現状と課題	4 pt
脳性まひ・筋疾患・染色体異常などの主な疾患について	2 pt
骨折・移乗介助・更衣（演習あり）	1 pt

※1 位に挙げられた場合に 3 ポイント、2 位に挙げられた場合に 2 ポイント、3 位に挙げられた場合に 1 ポイントとして合計得点を算出した。

「はじめよう小児訪問看護（基礎編）」における興味のある研修内容（内訳）

	興味のある研修内容
1位	<ul style="list-style-type: none"> 小児訪問看護の実際(3件) 重症心身障害児者の原因となる疾患・状態像の理解と対応(1件) 子どもの成長発達とフィジカルアセスメント(演習あり)(1件)
2位	<ul style="list-style-type: none"> 小児看護の現状と課題(2件) 重症心身障害児者の原因となる疾患・状態像の理解と対応(1件) 脳性まひ・筋疾患・染色体異常などの主な疾患について(1件) 子どもの成長発達とフィジカルアセスメント(演習あり)(1件)
3位	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの成長発達とフィジカルアセスメント(演習あり)(3件) 重症心身障害児者の原因となる疾患・状態像の理解と対応(1件) 骨折・移乗介助・更衣(演習あり)(1件)

「いのちを支える」の中では、「家族の思いに寄り添う看護（グループワーク・ロールプレイあり）」が10ポイントで最も多く、次いで「終末期にある重症心身障害児者の医療と看護（グループワークあり）」が7ポイント、「他職種の理解とチーム医療について（グループワークあり）」が6ポイントであった。

「いのちを支える」における興味のある研修内容（ポイント化）

興味のある研修内容	ポイント
家族の思いに寄り添う看護（グループワーク・ロールプレイあり）	10 pt
終末期にある重症心身障害児者の医療と看護（グループワークあり）	7 pt
他職種の理解とチーム医療について（グループワークあり）	6 pt
急変時の対応（演習あり）	4 pt
子どもの権利と倫理のかかわり（グループワークあり）	2 pt
小児がんについて	1 pt

※1位に挙げられた場合に3ポイント、2位に挙げられた場合に2ポイント、3位に挙げられた場合に1ポイントとして合計得点を算出した。

「いのちを支える」における興味のある研修内容（内訳）

	興味のある研修内容
1位	<ul style="list-style-type: none"> 終末期にある重症心身障害児者の医療と看護(グループワークあり)(2件) 他職種の理解とチーム医療について(グループワークあり)(1件) 急変時の対応(演習あり)(1件)
2位	<ul style="list-style-type: none"> 家族の思いに寄り添う看護(グループワーク・ロールプレイあり)(5件)
3位	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの権利と倫理のかかわり(グループワークあり)(2件) 急変時の対応(演習あり)(1件) 終末期にある重症心身障害児者の医療と看護(グループワークあり)(1件) 小児がんについて(1件)

「活動すること」の中では、「発達障害の理解と対応」が16ポイントで最も多く、次いで「最近の小児医療・重症心身障害児者の医療と看護の動向（グループワークあり）」が14ポイント、「小児リハビリテーション（演習あり）」が12ポイントであった。

「活動すること」における興味のある研修内容（ポイント化）

興味のある研修内容	ポイント
発達障害の理解と対応	16 pt
最近の小児医療・重症心身障害児者の医療と看護の動向（グループワークあり）	14 pt
小児リハビリテーション（演習あり）	12 pt
てんかん発作について	11 pt
特別支援学校における看護の役割について	11 pt
児童相談所の機能と役割について	10 pt
耳・鼻の機能・耳鼻科疾患について	3 pt
福祉用具	3 pt

※1位に挙げられた場合に3ポイント、2位に挙げられた場合に2ポイント、3位に挙げられた場合に1ポイントとして合計得点を算出した。

「活動すること」における興味のある研修内容（内訳）

	興味のある研修内容
1位	<ul style="list-style-type: none"> • 発達障害の理解と対応(4件) • 最近の小児医療・重症心身障害児者の医療と看護の動向(グループワークあり)(3件) • 小児リハビリテーション(演習あり)(2件) • てんかん発作について(1件)
2位	<ul style="list-style-type: none"> • 特別支援学校における看護の役割について(4件) • 児童相談所の機能と役割について(2件) • 発達障害の理解と対応(2件) • てんかん発作について(1件) • 最近の小児医療・重症心身障害児者の医療と看護の動向(グループワークあり)(1件)
3位	<ul style="list-style-type: none"> • 小児リハビリテーション(演習あり)(2件) • 児童相談所の機能と役割について(2件) • てんかん発作について(2件) • 最近の小児医療・重症心身障害児者の医療と看護の動向(グループワークあり)(1件) • 福祉用具(1件) • 耳・鼻の機能・耳鼻科疾患について(1件) • 特別支援学校における看護の役割について(1件)

「食べること」の中では、「摂食嚥下障害について」が20ポイントで最も多く、次いで「摂食嚥下障害のある患者への援助方法（演習あり）」が14ポイント、「相談支援と連携」が13ポイントであった。

「食べること」における興味のある研修内容（ポイント化）

興味のある研修内容	ポイント
摂食嚥下障害について	20 pt
摂食嚥下障害のある患者への援助方法（演習あり）	14 pt
相談支援と連携	13 pt
口腔衛生について（演習あり）	10 pt
重症心身障害児医療の歴史・重症心身障害の概念・診断	5 pt
消化器疾患と栄養障害について	5 pt
排尿障害について	3 pt
排便障害について	2 pt

※1位に挙げられた場合に3ポイント、2位に挙げられた場合に2ポイント、3位に挙げられた場合に1ポイントとして合計得点を算出した。

「食べること」における興味のある研修内容（内訳）

	興味のある研修内容
1位	<ul style="list-style-type: none"> • 摂食嚥下障害について(4件) • 摂食嚥下障害のある患者への援助方法(演習あり)(3件) • 相談支援と連携(3件) • 重症心身障害児医療の歴史・重症心身障害の概念・診断(1件) • 消化器疾患と栄養障害について(1件)
2位	<ul style="list-style-type: none"> • 口腔衛生について(演習あり)(3件) • 摂食嚥下障害について(3件) • 摂食嚥下障害のある患者への援助方法(演習あり)(2件) • 相談支援と連携(2件) • 重症心身障害児医療の歴史・重症心身障害の概念・診断(1件) • 排尿障害について(1件)
3位	<ul style="list-style-type: none"> • 口腔衛生について(演習あり)(4件) • 排尿障害について(3件) • 消化器疾患と栄養障害について(2件) • 摂食嚥下障害について(2件) • 摂食嚥下障害のある患者への援助方法(演習あり)(1件)

「呼吸すること」の中では、「人工呼吸器の基礎（演習あり）」が 29 ポイントで最も多く、次いで「呼吸障害の理解と肺理学療法（演習あり）」が 28 ポイント、「在宅生活を支える制度や社会資源について」が 22 ポイントであった。

「呼吸すること」における興味のある研修内容（ポイント化）

興味のある研修内容	ポイント
人工呼吸器の基礎（演習あり）	29 pt
呼吸障害の理解と肺理学療法（演習あり）	28 pt
在宅生活を支える制度や社会資源について	22 pt
呼吸障害の看護について（演習あり）	12 pt
呼吸障害について	11 pt
児童相談所の役割について	6 pt
循環器について	6 pt
心疾患（心奇形）について	6 pt

※1 位に挙げられた場合に 3 ポイント、2 位に挙げられた場合に 2 ポイント、3 位に挙げられた場合に 1 ポイントとして合計得点を算出した。

「呼吸すること」における興味のある研修内容（内訳）

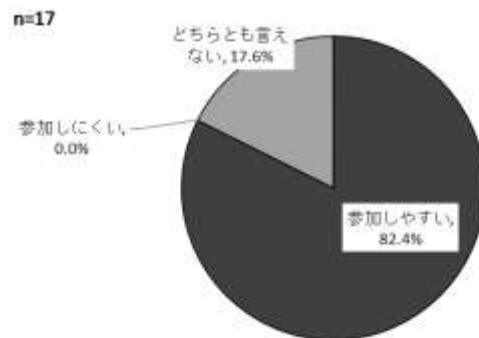
	呼吸すること
1 位	<ul style="list-style-type: none"> • 吸障害の理解と肺理学療法(演習あり)(7 件) • 人工呼吸器の基礎(演習あり)(3 件) • 呼吸障害について(2 件) • 呼吸障害の看護について(演習あり)(2 件) • 心疾患(心奇形)について(1 件)
2 位	<ul style="list-style-type: none"> • 在宅生活を支える制度や社会資源について(5 件) • 人工呼吸器の基礎(演習あり)(4 件) • 吸障害の理解と肺理学療法(演習あり)(2 件) • 呼吸障害の看護について(演習あり)(3 件) • 人工呼吸器の基礎(演習あり)(3 件) • 呼吸障害について(1 件)
3 位	<ul style="list-style-type: none"> • 人工呼吸器の基礎(演習あり)(4 件) • 在宅生活を支える制度や社会資源について(4 件) • 児童相談所の役割について(2 件) • 循環器について(2 件) • 吸障害の理解と肺理学療法(演習あり)(1 件) • 呼吸障害について(1 件) • 心疾患(心奇形)について(1 件)

⑨ 研修会の開催方法について

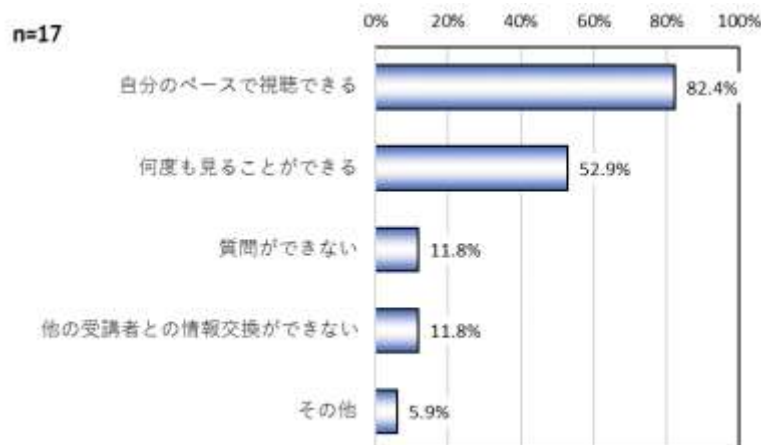
研修会の開催方法について尋ねたところ、オンデマンド配信による研修については「参加しやすい」が82.4%、「どちらとも言えない」が17.6%であった。

その理由としては、「自分のペースで視聴できる」が82.4%で最も多く、次いで「何度も見ることができる」が52.9%、「質問ができない」と「他の受講者との情報交換ができない」がそれぞれ11.8%であった。

オンデマンド配信による研修に対する評価



オンデマンド配信による研修に対する評価の理由（複数回答）



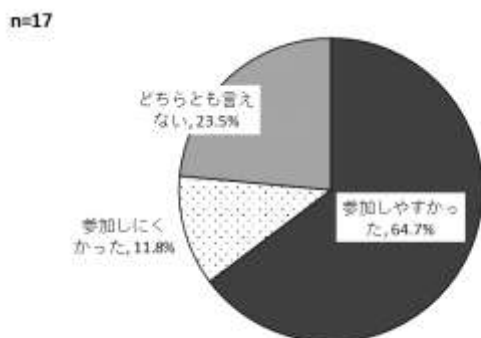
※その他：

- 開催場所への距離を気にせず参加できる

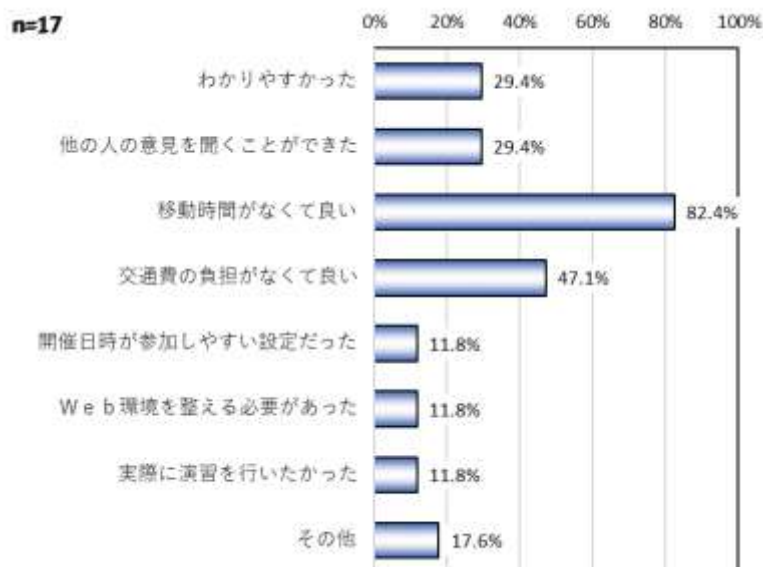
ライブ配信による研修については「参加しやすかった」が 64.7%、「どちらとも言えない」が 23.5%、「参加しにくかった」が 11.8%であった。

その理由としては、「移動時間がなくて良い」が 82.4%で最も多く、次いで「交通費の負担がなくて良い」が 47.1%、「わかりやすかった」及び「他の人の意見を聞くことができた」がそれぞれ 29.4%であった。

ライブ配信による研修に対する評価



ライブ配信による研修に対する評価の理由（複数回答）



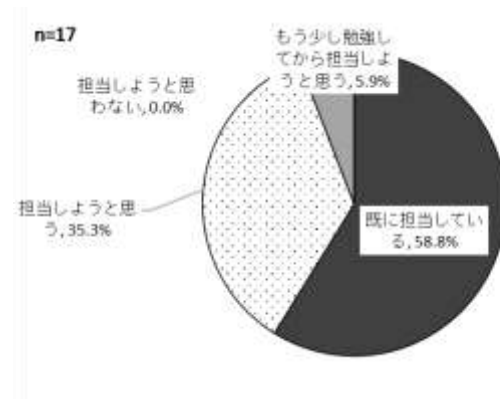
※その他：

- 初めてのライブ配信によるグループワークや演習で緊張した為 次回からはもっと落ち着いて出来そう。
- 質問しにくい。チャットが上手く使えない。
- その時に参加できる様に時間を割いていこうと思っても、急な仕事などで結局今回の様に参加できず残念な思いをした。

⑩ 今後小児の訪問看護を担当したいと思うか

今後小児の訪問看護を担当したいと思うか尋ねたところ、「既に担当している」が 58.8%、「担当しようと思う」が 35.3%、「もう少し勉強してから担当しようと思う」が 5.9%であった。「担当しようと思わない」という回答はなかった。

今後小児の訪問看護を担当したいと思うか



※ 「もう少し勉強してから担当しようと思う」「担当しようと思わない」を選んだ理由：

- 全く経験がない中で、いろんな成長段階にある小児看護を1人で実践するのは不安。

⑪ その他ご意見

- 1回目のライブ配信に参加できてなかったのですが、2回目参加が心配だったが参加してグループワーク、演習を行ってとても良かったと思う。周囲に小児の経験者がいなかったので自分自身手探り状態だったが、講義やグループワーク等で日頃の自分の訪問看護を振り返り、修正が必要と感じたり、これでいいと安心したり、評価の指標になったように思う。何より他県でも頑張っている方がたくさんいることが励みになった。グループワークでの何気ない一言がとてもうれしかった。また1回目を受けられなかったことが残念。
- 小児訪問看護と看多機や小児訪問と通園または医療ケアの放課後デイ併設など立ち上げの話が聞きたい。自分の地域にはあまりなく、あったらいいなと思う。
- とても丁寧で分かりやすい研修だった。実際の経験がないが、前もって学ぶことができ本当に良かった。
- オンラインセミナーを開催に感謝。
- 小児訪問看護を多角的に行っているステーションに見学に行きたい。
- 社会的背景でどんどん需要のある分野であると思って頑張っているが、地方ほど行政との軋轢や偏見が多く、連携もしづらい状況なので、いろいろな方向から広めて仲間を作りたい。
- 多くが、オンデマンド配信だったため、自分のペースで仕事をしながらでも研修を受けることができ、わかりにくいところは、何度も見ることができたのでよかった。
- この研修の Part1 に参加した時は、小児の訪問看護のイメージや実感が湧かず、グループワーク中も自分の理想や思いで話をしていたところがあった。重症の子の訪問に入ることになり、グループワークで事例で考える時などいろんな思いや心配が重なって、発言できなくなったところもあった。不安はあるが、やっぱり小児の訪問看護をやって行きたいという気持ちは変わらず一歩ずつ前に進んでいこうと思う。研修に参加して良かった。
- 緊急時の対応は配信で完璧な動画を何度も見たほうが、個人的には勉強になる。
- これからの人生の中で何か求めるものがあるならば今まで避けてきた小児科を頑張っていきたいと思う。

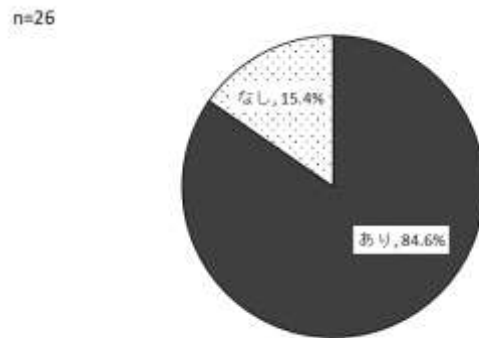
(2) 活動すること

① 回答者属性について

回答のあった 26 人のうち、医療機関における小児看護及び小児訪問看護の経験が「あり」は 84.6%、「なし」が 15.4%であった。

医療機関における小児看護及び小児訪問看護の経験が「あり」の者における、医療機関における小児看護の経験年数は平均 7.9 年、訪問看護事業所における小児訪問看護の経験年数は平均 5.1 年であった。また、訪問看護で担当した小児は「1～5 人」が 50.0%であった。

医療機関における小児看護・小児訪問看護の経験の有無



【経験がある場合】医療機関における小児看護の経験年数：平均 7.9 年 (n=12)

【経験がある場合】訪問看護事業所における小児訪問看護の経験年数：平均 5.1 年 (n=22)

【経験がある場合】訪問看護で担当した小児の人数 (n=22)

	人数	割合
1～5 人	11 人	50.0%
6～20 人	5 人	22.7%
21 人以上	6 人	27.3%
合計	22 人	100.0%

② てんかん発作について

てんかん発作に関する講義における達成目標は以下の通りであった。

【達成目標】

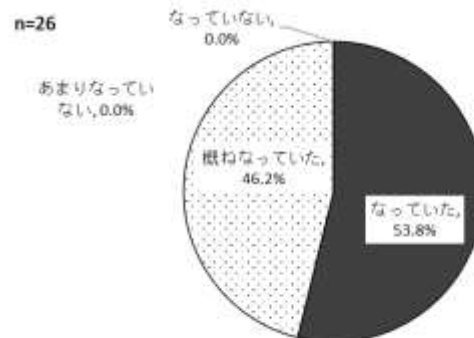
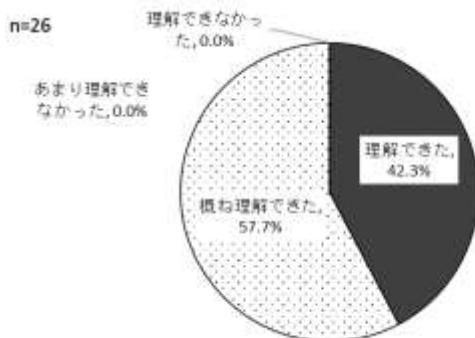
- てんかんの原因、診断、治療について理解する
- てんかん発作の観察ポイントについて理解する
- てんかん発作を予防するための日常生活管理について理解する

本講義について、講義内容について理解できたか尋ねたところ、「理解できた」が 42.3%、「概ね理解できた」が 57.7%であった。「あまり理解できなかった」「理解できなかった」という回答はなかった。

また、到達目標を達成できる内容になっていたか尋ねたところ、「なっていた」が 53.8%、「概ねなっていた」が 46.2%であった。「あまりなっていない」「なっていない」という回答はなかった。

講義内容について理解できたか

到達目標を達成できる内容になっていたか



③ 睡眠障害について

睡眠障害に関する講義における達成目標は以下の通りであった。

【達成目標】

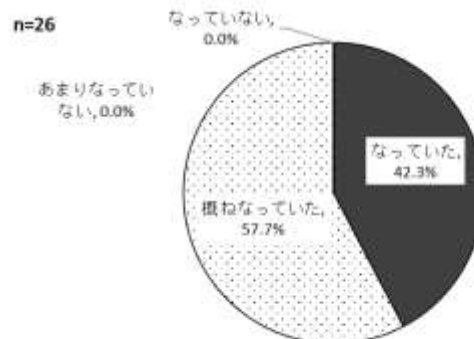
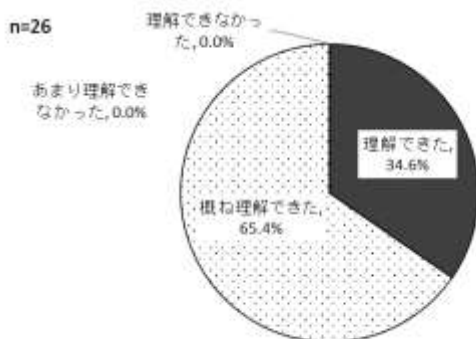
- 睡眠のメカニズムについて理解する
- 睡眠障害のメカニズムについて理解する
- 睡眠障害の治療について理解する
- 睡眠障害への援助方法について理解する

本講義について、講義内容について理解できたか尋ねたところ、「理解できた」が 34.6%、「概ね理解できた」が 65.4%であった。「あまり理解できなかった」「理解できなかった」という回答はなかった。

また、到達目標を達成できる内容になっていたか尋ねたところ、「なっていた」が 42.3%、「概ねなっていた」が 57.7%であった。「あまりなっていない」「なっていない」という回答はなかった。

講義内容について理解できたか

到達目標を達成できる内容になっていたか



④ 耳鼻科疾患について

耳鼻科疾患に関する講義における達成目標は以下の通りであった。

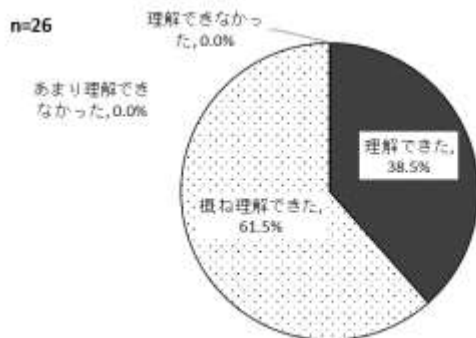
【達成目標】

- 耳鼻科疾患について理解する
- 耳鼻科疾患の治療方法について理解する

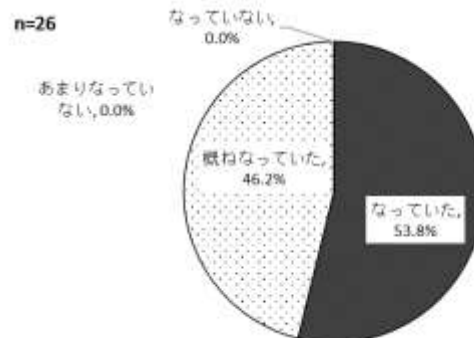
本講義について、講義内容について理解できたか尋ねたところ、「理解できた」が 38.5%、「概ね理解できた」が 61.5%であった。「あまり理解できなかった」「理解できなかった」という回答はなかった。

また、到達目標を達成できる内容になっていたか尋ねたところ、「なっていた」が 53.8%、「概ねなっていた」が 46.2%であった。「あまりなっていない」「なっていない」という回答はなかった。

講義内容について理解できたか



到達目標を達成できる内容になっていたか



⑤ 眼の機能・眼科疾患について

眼の機能・眼科疾患に関する講義における達成目標は以下の通りであった。

【達成目標】

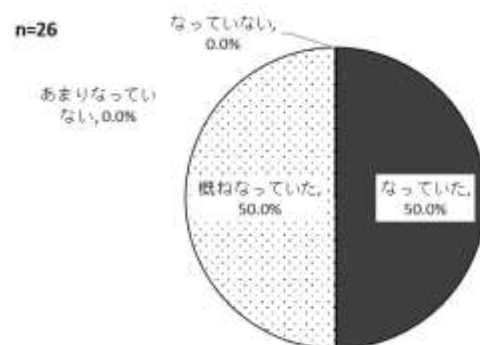
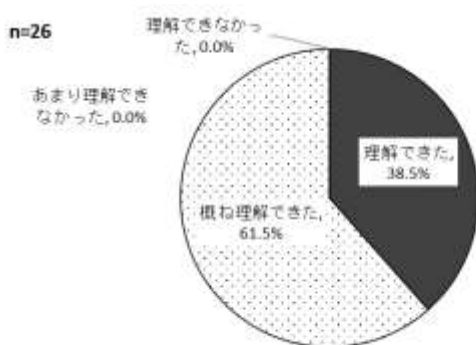
- 眼の機能を理解する
- 眼科疾患について理解する
- 眼科疾患の治療方法について理解する

本講義について、講義内容について理解できたか尋ねたところ、「理解できた」が 38.5%、「概ね理解できた」が 61.5%であった。「あまり理解できなかった」「理解できなかった」という回答はなかった。

また、到達目標を達成できる内容になっていたか尋ねたところ、「なっていた」と「概ねなっていた」がそれぞれ 50.0%であった。「あまりなっていない」「なっていない」という回答はなかった。

講義内容について理解できたか

到達目標を達成できる内容になっていたか



⑥ 発達障害の理解と対応について

発達障害の理解と対応に関する講義における達成目標は以下の通りであった。

【達成目標】

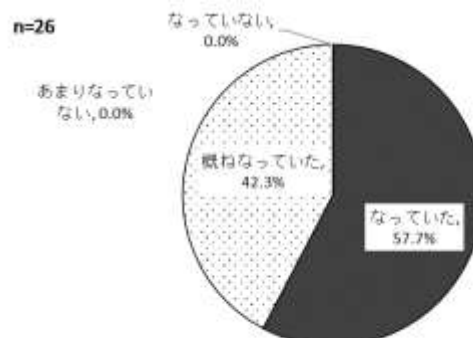
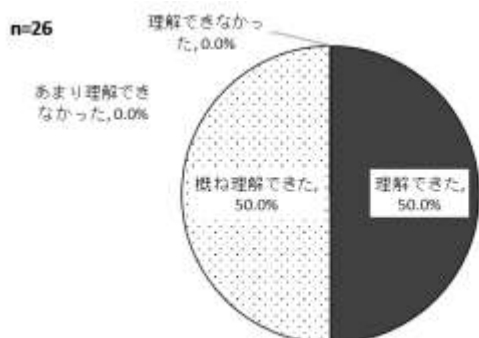
- 発達障害の原因、分類が理解できる
- 発達障害を持つ子どもとその家族への適切な対応や、援助の方法がわかる

本講義について、講義内容について理解できたか尋ねたところ、「理解できた」と「概ね理解できた」がそれぞれ 50.0%であった。「あまり理解できなかった」「理解できなかった」という回答はなかった。

また、到達目標を達成できる内容になっていたか尋ねたところ、「なっていた」が 57.7%、「概ねなっていた」が 42.3%であった。「あまりなっていない」「なっていない」という回答はなかった。

講義内容について理解できたか

到達目標を達成できる内容になっていたか



⑦ 児童相談所の機能と役割について

児童相談所の機能と役割に関する講義における達成目標は以下の通りであった。

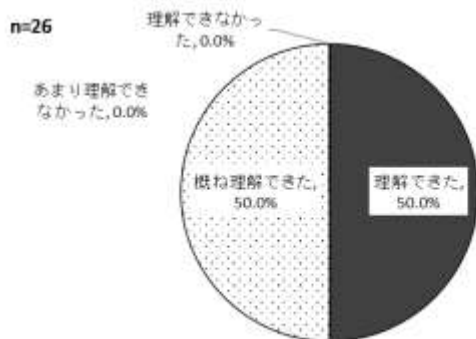
【達成目標】

- 児童相談所の機能・役割がわかる
- 小児虐待に対する児童相談所の関わりが理解できる
- 小児、障害児者の虐待がおこる背景および家族のアセスメントについて理解できる

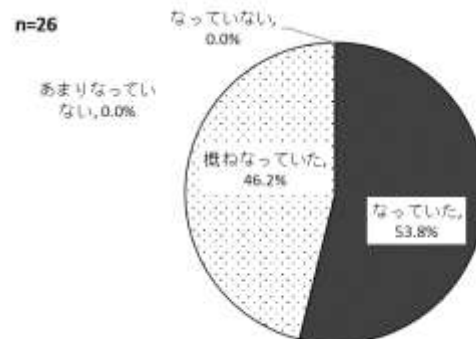
本講義について、講義内容について理解できたか尋ねたところ、「理解できた」と「概ね理解できた」がそれぞれ 50.0%であった。「あまり理解できなかった」「理解できなかった」という回答はなかった。

また、到達目標を達成できる内容になっていたか尋ねたところ、「なっていた」が 53.8%、「概ねなっていた」が 46.2%であった。「あまりなっていない」「なっていない」という回答はなかった。

講義内容について理解できたか



到達目標を達成できる内容になっていたか



⑧ 特別支援学校における看護の役割について

特別支援学校における看護の役割に関する講義における達成目標は以下の通りであった。

【達成目標】

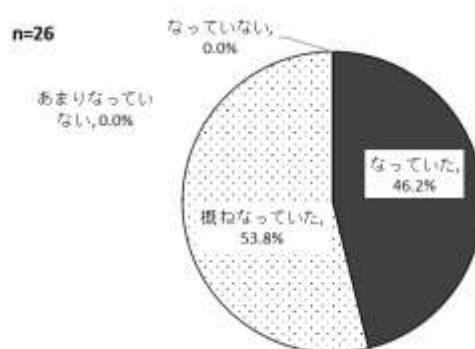
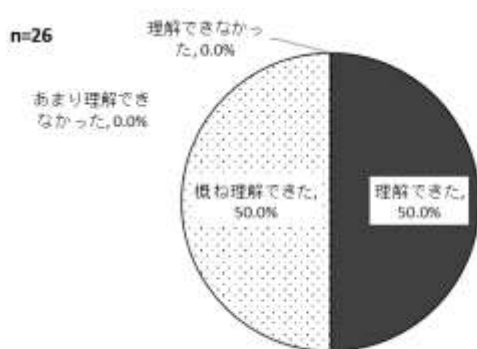
- 特別支援学校の機能・役割について理解できる
- 学びの場で実践される医療的ケアの実際、看護職の役割について理解できる

本講義について、講義内容について理解できたか尋ねたところ、「理解できた」と「概ね理解できた」がそれぞれ 50.0%であった。「あまり理解できなかった」「理解できなかった」という回答はなかった。

また、到達目標を達成できる内容になっていたか尋ねたところ、「なっていた」が 46.2%、「概ねなっていた」が 53.8%であった。「あまりなっていない」「なっていない」という回答はなかった。

講義内容について理解できたか

到達目標を達成できる内容になっていたか



⑨ 福祉用具・装具について

福祉用具・装具に関する講義における達成目標は以下の通りであった。

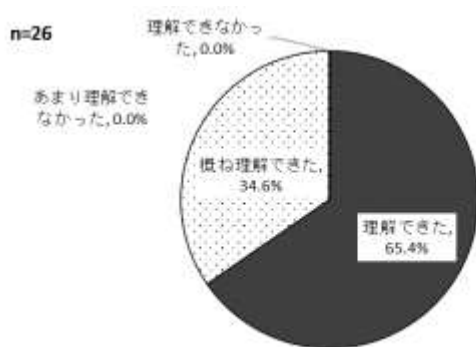
【達成目標】

- 福祉用具の特徴について理解する
- 用具を装着する際の注意点について理解できる

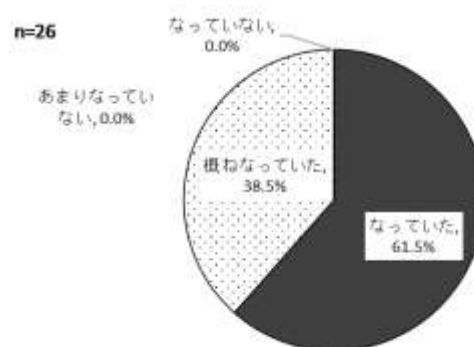
本講義について、講義内容について理解できたか尋ねたところ、「理解できた」が 65.4%、「概ね理解できた」が 34.6%であった。「あまり理解できなかった」「理解できなかった」という回答はなかった。

また、到達目標を達成できる内容になっていたか尋ねたところ、「なっていた」が 61.5%、「概ねなっていた」が 38.5%であった。「あまりなっていない」「なっていない」という回答はなかった。

講義内容について理解できたか



到達目標を達成できる内容になっていたか



⑩ 最近の小児医療・重症心身障害児の医療・看護の動向について

最近の小児医療・重症心身障害児の医療・看護の動向に関する講義における達成目標は以下の通りであった。

【達成目標】

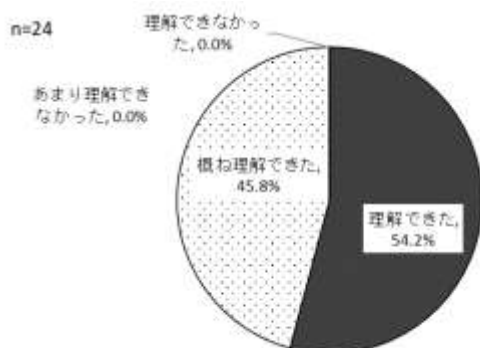
- 子どもをとりまく医療と看護の動向、環境について理解できる
- 重症心身障害児の医療について理解できる
- 小児訪問看護における看護の課題を検討できる

本講義について、講義内容について理解できたか尋ねたところ、「理解できた」が 54.2%、「概ね理解できた」が 45.8%であった。「あまり理解できなかった」「理解できなかった」という回答はなかった。

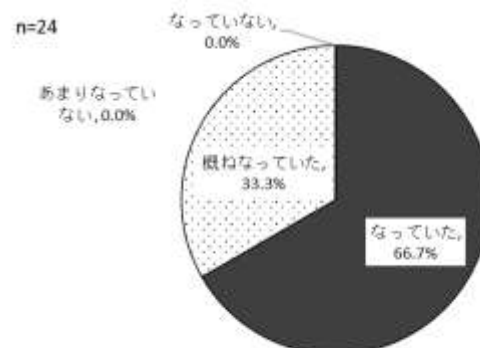
また、到達目標を達成できる内容になっていたか尋ねたところ、「なっていた」が 66.7%、「概ねなっていた」が 33.3%であった。「あまりなっていない」「なっていない」という回答はなかった。

グループワークで学びが深まったか尋ねたところ、「深まった」が 41.7%、「概ね深まった」が 45.8%、「深まらなかった」が 12.5%であった。

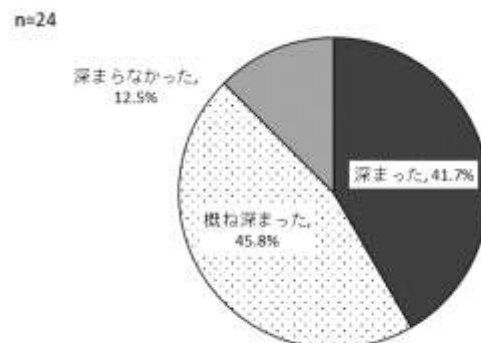
講義内容について理解できたか



到達目標を達成できる内容になっていたか



グループワークで学びは深まったか



【グループワークに関する主なご意見】

深まった

- 小児経験豊富な看護師さんの実践的なところでの意見をきけたので良かった。
- 他のステーションの現状や課題などを知り、問題を共有できるところが勉強になり、取り入れようと思うことなどがあった。また支援相談員ともっとコミュニケーションをとり、医療の理解度など把握し協力して生かしていく大切さを学べた。
- それぞれの利用者との関わりがわかり、参考になった。
- 在宅小児看護での疑問や不安が共有できて良かったと思う。みんな悩んで看護している事も分かり安心した。
- 実際の現場での問題点を共有できるいい機会となった。
- 県外の訪問看護ステーションの動向を知り、自分のステーションでもマニュアルを作ってみようと思った。
- 各事業所の状況や情報を共有し、自身のケアを振り返ることができた。
- 色々なステーションでの事例について聞き、学びになった。
- 他のステーションや地域での小児訪問看護の現状や課題について共有することができた。

概ね深まった

- 他のステーションの現状を教えてもらえた。
- グループワークを通して他ステーションと困り事を共有したり情報を得ることで、今後の訪問のヒントとなることが多く学べた。今後、グループワークに看護師だけでなく他職種（相談支援員の方など）にも参加してもらい、その実際・現状も知りたいと思った。
- オンラインでの実施だった為、1人1人の発言にやや時間がかかってしまい時間が足りないと感じたが、それぞれの地域の違いなども聞く事ができた。講義の内容はとてもわかりやすかった。
- グループワークで様々な活動内の困りごとを聞き、なかなか解決できない現状があることが分かった。研修ではすべて解決の糸口が見つけられたわけではなかったのが、概ねとした。
- 児童相談所や相談員などと、連携を取る事で、患児や家族の理解が得られ、ケアにいかせていける事を学べた。
- 様々なステーションの取り組みを通して、課題など明確に感じる事ができた。さらに学びを深めなければと感じた
- オンラインでのグループワークに慣れておらず、話しにくかった。
- それぞれの経験談を聞くことができ、また現在抱えているそれぞれの悩み、課題に役立つものだった。
- 他の訪問看護ステーションでの小児の関わりなど知る事ができ、有益だった。
- 自分の悩みや解決方法などほかの事業所の方に聞く事が出来た。また現在の状況を共有することができたことで学びを深めることができた。
- 自分では気づくことができないことに気づくきっかけがあった。

深まらなかった

- グループワークの時にどうしても対応しなければいけない訪問が入り、ちょうどグループワークの時に抜けてしまった。
- グループワークの時間が少なく、意見が少なかったように思った。
- グループワークの機会が少なくまた時間も少なかった。

⑪ 小児リハビリテーションについて

最近の小児リハビリテーションに関する講義における達成目標は以下の通りであった。

【達成目標】

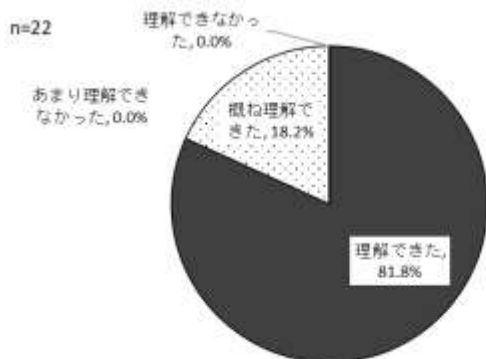
- 筋緊張のケア（リラクゼーション、ポジショニング等）を理解できる
- ROMエクササイズの内容が理解できる

本講義について、講義内容について理解できたか尋ねたところ、「理解できた」が 81.8%、「概ね理解できた」が 18.2%であった。「あまり理解できなかった」「理解できなかった」という回答はなかった。

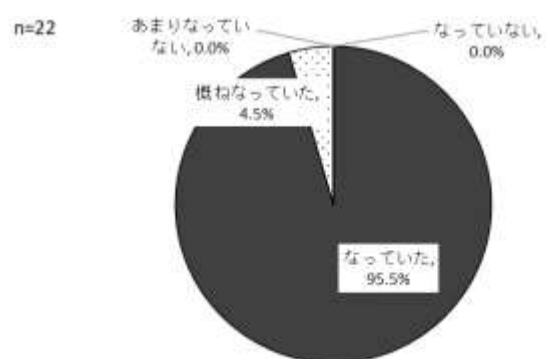
また、到達目標を達成できる内容になっていたか尋ねたところ、「なっていた」が 95.5%、「概ねなっていた」が 4.5%であった。「あまりなっていない」「なっていない」という回答はなかった。

演習で学びが深まったか尋ねたところ、「深まった」が 95.5%、「概ね深まった」が 4.5%であった。「深まらなかった」という回答はなかった。

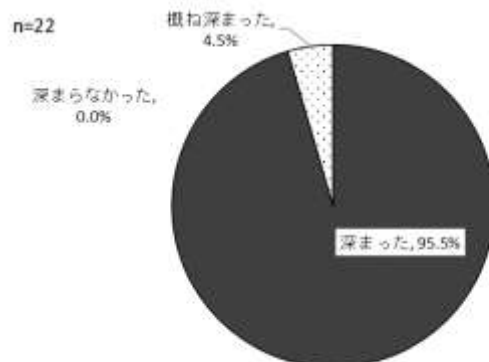
講義内容について理解できたか



到達目標を達成できる内容になっていたか



演習で学びは深まったか



【グループワークに関する主なご意見】

深まった

- セラピストが常勤しているステーションで、小児もセラピストの訪問に任せることが多く、今回の講義で看護師が関わることの重要性がわかり、今後関わるができる自信になった。
- 知識不足だったことが補われた。根拠をもって訪問看護にあたれると感じた。
- 時間があっという間に過ぎてしまうくらいの面白くわかりやすい講義だった。オンラインでなく対面でありがたかった。人数においてもサポートしてくれる先生方が手厚くいたため実技においても満足。
- 短い時間で講師がなるべく多くの事を学べるように講義をしてくれ、とても勉強になった。実技で学ぶ事ができ、具体的な体験ができたのでわかりやすかった。
- 実際に体験してみて今まで行っていたポジショニングの方法が間違っていたと痛感した。できていると思っていても、余計に筋緊張を与えていたり、意味がないポジショニングだったのだとわかった。今回は時間が短かったが、低緊張の子のポジショニングなどもっとたくさん教えてほしかった。
- 今まで体験した事が無い項目だったので、これからの看護に多いに活かせると思う。
- 臨床の場でケアを行なっている講師の方々だったので、細かいハンドリングや施術者の手の力の入れ方などテキストなどでは分かりにくい部分の学習が出来た。
- 小児リハビリの看護を集中して講義、演習してもらい納得する事も多く、今後に活かしていきたいと思う。
- ランドマークを理解することで、個々の良肢位を考える事の大切さがわかった。運動で情緒面の刺激をすることなど、成長に大きく関わる事も学べた。ポジショニングでの体験は、安心感も体感でき現場で導入したいと思う。
- 講義や資料だけでなく演習が出来たことで伝達講習や実践で役立つ事が出来る。
- 小児の ROM を実践することが今までなかったなので、体験する事ができてよかった。
- 実際に実技で学ぶことができ、すぐに取り入れられる内容だった。
- 短い時間ではあったが、自分自身で緊張状態とはどんな状態で、どんな苦痛があるのかが体験できたことで、児の姿勢やポジショニングのアセスメントが大切であると感じた。
- 実際に自分が体感することで学びが深まった。身体を動かし実演し解る事が多くあった。
- 指導者の実践を体験出来たため、よりわかりやすく大変貴重な機会であった。有意義であったが時間が足りなかったため、もっと長い時間でも良かった。
- リハビリについて体験でき、とても参考になった。
- 演習で、実際に ROMex の方法を学び、体験することができた。正しい方法で行うと心地よく感じる事が分かり、ぜひ今回学んだ方法を実践していきたいと思った。
- 重心児や呼吸器を使用して在宅で過ごす小児を受け持っているため、今後の心身の発達に関して有用と感じた。実際自ら経験することで効果を実感することができた。

概ね深まった

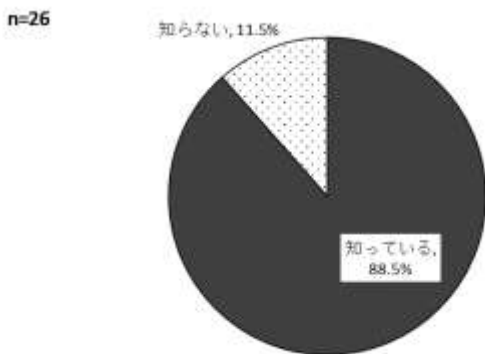
- 時間が少なかった リハビリの講師の人数がもう少し多いと良いと思った。

⑫ 小児訪問看護研修プログラムについて

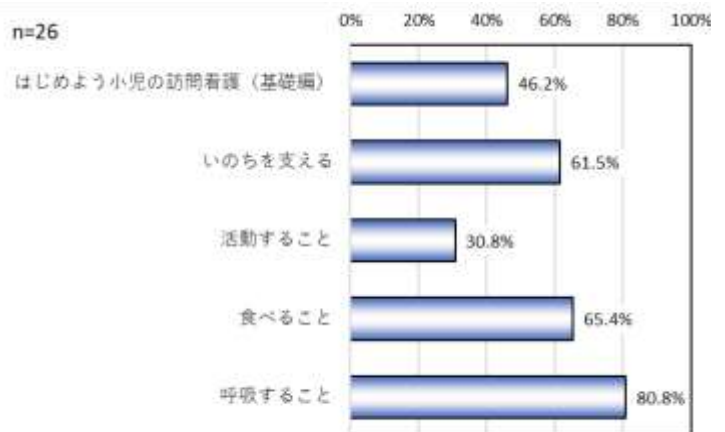
小児訪問看護研修のプログラム（p.3～7 参照）が 5 編から構成されることについて知っているかどうか尋ねたところ、「知っている」が 88.5%、「知らない」が 11.5%であった。

5 つの編のうち、興味のある研修を尋ねたところ、「呼吸すること」が 80.8%で最も多く、次いで「食べること」が 65.4%、「いのちを支える」が 61.5%であった。

小児訪問看護研修プログラムの認知度



興味のある研修（複数回答）



アンケートでは、興味のある 5 つの編のうち、具体的内容についても上位 3 つまで尋ねた。1 位に挙げられた場合に 3 ポイント、2 位に挙げられた場合に 2 ポイント、3 位に挙げられた場合に 1 ポイントとして合計得点を算出した。

その結果、「はじめよう小児の訪問看護（基礎編）」の中では、「子どもの成長発達とフィジカルアセスメント（演習あり）」が 23 ポイントで最も多く、次いで「重症心身障害児者の原因となる疾患・状態像の理解と対応」が 12 ポイント、「小児看護の現状と課題」が 11 ポイントであった。

「はじめよう小児訪問看護（基礎編）」における興味のある研修内容（ポイント化）

興味のある研修内容	ポイント
子どもの成長発達とフィジカルアセスメント（演習あり）	23 pt
重症心身障害児者の原因となる疾患・状態像の理解と対応	12 pt
小児看護の現状と課題	11 pt
小児訪問看護の実際	10 pt
骨折・移乗介助・更衣（演習あり）	9 pt
脳性まひ・筋疾患・染色体異常などの主な疾患について	4 pt
診療所が実施する小児在宅医療の実際	3 pt

※1 位に挙げられた場合に 3 ポイント、2 位に挙げられた場合に 2 ポイント、3 位に挙げられた場合に 1 ポイントとして合計得点を算出した。

「はじめよう小児訪問看護（基礎編）」における興味のある研修内容（内訳）

	興味のある研修内奥
1位	<ul style="list-style-type: none"> • こどもの成長発達とフィジカルアセスメント(演習あり)(5件) • 小児看護の現状と課題(2件) • 小児訪問看護の実際(1件) • 診療所が実施する小児在宅医療の実際(1件) • 脳性まひ・筋疾患・染色体異常などの主な疾患について(1件)
2位	<ul style="list-style-type: none"> • 子どもの成長発達とフィジカルアセスメント(演習あり)(3件) • 重症心身障害児者の原因となる疾患・状態像の理解と対応(3件) • 小児訪問看護の実際(3件) • 小児看護の現状と課題(2件) • 骨折・移乗介助・更衣(演習あり)(1件)
3位	<ul style="list-style-type: none"> • 骨折・移乗介助・更衣(演習あり)(1件) • 子どもの成長発達とフィジカルアセスメント(演習あり)(2件) • 重症心身障害児者の原因となる疾患・状態像の理解と対応(6件) • 小児看護の現状と課題(1件) • 小児訪問看護の実際(1件) • 脳性まひ・筋疾患・染色体異常などの主な疾患について(1件)

「いのちを支える」の中では、「家族の思いに寄り添う看護（グループワーク・ロールプレイあり）」が37ポイントで最も多く、次いで「終末期にある重症心身障害児者の医療と看護（グループワークあり）」が18ポイント、「他職種の理解とチーム医療について（グループワークあり）」が14ポイントであった。

「いのちを支える」における興味のある研修内容（ポイント化）

興味のある研修内容	ポイント
家族の思いに寄り添う看護（グループワーク・ロールプレイあり）	37 pt
終末期にある重症心身障害児者の医療と看護（グループワークあり）	18 pt
他職種の理解とチーム医療について（グループワークあり）	14 pt
急変時の対応（演習あり）	12 pt
子どもの権利と倫理的かかわり（グループワークあり）	10 pt
小児がんについて	5 pt

※1位に挙げられた場合に3ポイント、2位に挙げられた場合に2ポイント、3位に挙げられた場合に1ポイントとして合計得点を算出した。

「いのちを支える」における興味のある研修内容（内訳）

	いのちを支える
1 位	<ul style="list-style-type: none"> • 家族の思いに寄り添う看護(グループワーク・ロールプレイあり)(9 件) • 終末期にある重症心身障害児者の医療と看護(グループワークあり)(3 件) • 急変時の対応(演習あり)(2 件) • 他職種の理解とチーム医療について(グループワークあり)(2 件)
2 位	<ul style="list-style-type: none"> • 子どもの権利と倫理のかかわり(グループワークあり)(3 件) • 急変時の対応(演習あり)(3 件) • 小児がんについて(2 件) • 終末期にある重症心身障害児者の医療と看護(グループワークあり)(2 件) • 急変時の対応(演習あり)(2 件)
3 位	<ul style="list-style-type: none"> • 他職種の理解とチーム医療について(グループワークあり)(5 件) • 子どもの権利と倫理のかかわり(グループワークあり)(4 件) • 家族の思いに寄り添う看護(グループワーク・ロールプレイあり)(2 件)終末期にある重症心身障害児者の医療と看護(グループワークあり)(2 件) • 小児がんについて(1 件) • 他職種の理解とチーム医療について(グループワークあり)(1 件) • 終末期にある重症心身障害児者の医療と看護(グループワークあり)(1 件)

「活動すること」の中では、「てんかん発作について」が 12 ポイントで最も多く、次いで「小児リハビリテーション（演習あり）」が 11 ポイント、「発達障害の理解と対応」が 10 ポイントであった。

「活動すること」における興味のある研修内容（ポイント化）

興味のある研修内容	ポイント
てんかん発作について	12 pt
小児リハビリテーション（演習あり）	11 pt
発達障害の理解と対応	10 pt
最近の小児医療・重症心身障害児者の医療と看護の動向（グループワークあり）	6 pt
児童相談所の機能と役割について	4 pt
特別支援学校における看護の役割について	4 pt
目の機能・眼科疾患について	1 pt

※1 位に挙げられた場合に 3 ポイント、2 位に挙げられた場合に 2 ポイント、3 位に挙げられた場合に 1 ポイントとして合計得点を算出した。

「活動すること」における興味のある研修内容（内訳）

	興味のある研修内容
1位	<ul style="list-style-type: none"> てんかん発作について(3件) 小児リハビリテーション(演習あり)(2件) 最近の小児医療・重症心身障害児者の医療と看護の動向(グループワークあり)(1件) 児童相談所の機能と役割について(1件) 発達障害の理解と対応(1件)
2位	<ul style="list-style-type: none"> 小児リハビリテーション(演習あり)(2件) 特別支援学校における看護の役割について(2件) 発達障害の理解と対応(2件) 発達障害の理解と対応(1件) てんかん発作について(1件)
3位	<ul style="list-style-type: none"> 最近の小児医療・重症心身障害児者の医療と看護の動向(グループワークあり)(2件) 最近の小児医療・重症心身障害児者の医療と看護の動向(グループワークあり)(1件) 発達障害の理解と対応(1件) 目の機能・眼科疾患について(1件) 児童相談所の機能と役割について(1件) てんかん発作について(1件) 小児リハビリテーション(演習あり)(1件)

「食えること」の中では、「摂食嚥下障害のある患者への援助方法（演習あり）」が39ポイントで最も多く、次いで「摂食嚥下障害について」が15ポイント、「相談支援と連携」が13ポイントであった。

「食えること」における興味のある研修内容（ポイント化）

興味のある研修内容	ポイント
摂食嚥下障害のある患者への援助方法（演習あり）	39 pt
摂食嚥下障害について	15 pt
相談支援と連携	13 pt
口腔衛生について（演習あり）	11 pt
消化器疾患と栄養障害について	11 pt
排便障害について	8 pt
重症心身障害児医療の歴史・重症心身障害の概念・診断	7 pt
排尿障害について	4 pt

※1位に挙げられた場合に3ポイント、2位に挙げられた場合に2ポイント、3位に挙げられた場合に1ポイントとして合計得点を算出した。

「食べること」における興味のある研修内容（内訳）

	興味のある研修内容
1位	<ul style="list-style-type: none"> 摂食嚥下障害のある患者への援助方法（演習あり）（11件） 相談支援と連携（3件） 摂食嚥下障害について（2件） 排尿障害について（2件）
2位	<ul style="list-style-type: none"> 口腔衛生について（演習あり）（5件） 重症心身障害児医療の歴史・重症心身障害の概念・診断（3件） 消化器疾患と栄養障害について（4件） 摂食嚥下障害について（3件） 摂食嚥下障害のある患者への援助方法（演習あり）（2件） 排便障害について（1件）
3位	<ul style="list-style-type: none"> 相談支援と連携（4件） 摂食嚥下障害について（3件） 消化器疾患と栄養障害について（3件） 排便障害について（3件） 摂食嚥下障害のある患者への援助方法（演習あり）（2件） 摂食嚥下障害について（2件） 重症心身障害児医療の歴史・重症心身障害の概念・診断（1件） 口腔衛生について（演習あり）（1件） 排尿障害について（1件）

「呼吸すること」の中では、「呼吸障害の理解と肺理学療法（演習あり）」が41ポイントで最も多く、次いで「呼吸障害の看護について（演習あり）」が26ポイント、「人工呼吸器の基礎（演習あり）」が20ポイントであった。

「呼吸すること」における興味のある研修内容（ポイント化）

興味のある研修内容	ポイント
呼吸障害の理解と肺理学療法（演習あり）	41 pt
呼吸障害の看護について（演習あり）	26 pt
人工呼吸器の基礎（演習あり）	20 pt
在宅生活を支える制度や社会資源について	15 pt
呼吸障害について	13 pt
循環器について	8 pt
心疾患（心奇形）について	7 pt
児童相談所の役割について	2 pt

※1位に挙げられた場合に3ポイント、2位に挙げられた場合に2ポイント、3位に挙げられた場合に1ポイントとして合計得点を算出した。

「呼吸すること」における興味のある研修内容（内訳）

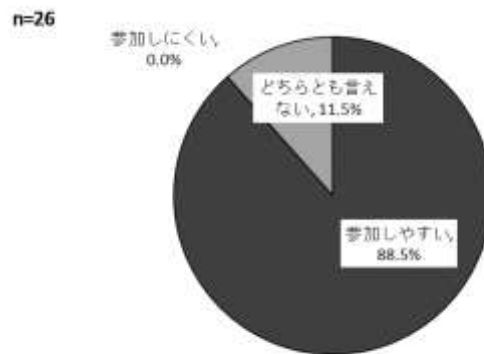
	興味のある研修内容
1位	<ul style="list-style-type: none"> • 呼吸障害の理解と肺理学療法(演習あり)(11件) • 呼吸障害の看護について(演習あり)(5件) • 在宅生活を支える制度や社会資源について(3件) • 呼吸障害について(1件) • 心疾患(心奇形)について(1件) • 人工呼吸器の基礎(演習あり)(1件)
2位	<ul style="list-style-type: none"> • 人工呼吸器の基礎(演習あり)(7件) • 呼吸障害の理解と肺理学療法(演習あり)(6件) • 呼吸障害について(4件) • 循環器について(2件) • 心疾患(心奇形)について(1件) • 在宅生活を支える制度や社会資源について(1件) • 児童相談所の役割について(1件)
3位	<ul style="list-style-type: none"> • 在宅生活を支える制度や社会資源について(4件) • 呼吸障害の理解と肺理学療法(演習あり)(4件) • 循環器について(4件) • 人工呼吸器の基礎(演習あり)(3件) • 呼吸障害の看護について(演習あり)(3件) • 呼吸障害について(2件) • 心疾患(心奇形)について(2件)

⑬ 研修会の開催方法について

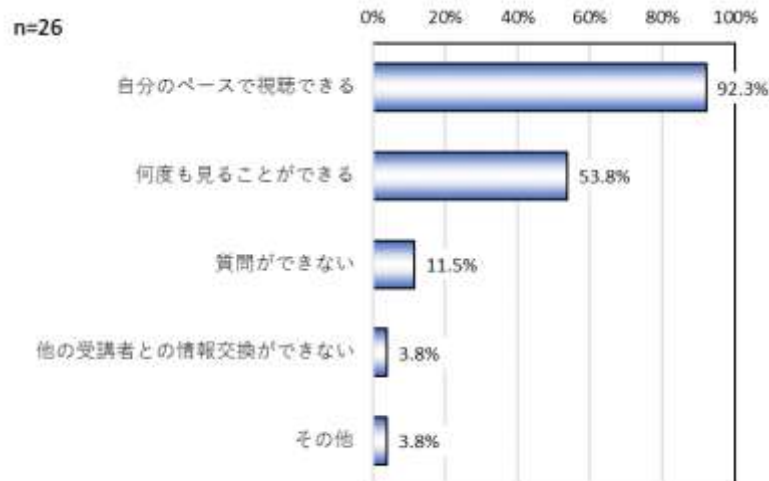
研修会の開催方法について尋ねたところ、オンデマンド配信による研修については「参加しやすい」が88.5%、「どちらとも言えない」が11.5%であった。「参加しにくい」という回答はなかった。

その理由としては、「自分のペースで視聴できる」が92.3%で最も多く、次いで「何度も見ることができる」が53.8%、「質問ができない」が11.5%であった。

オンデマンド配信による研修に対する評価



オンデマンド配信による研修に対する評価の理由（複数回答）



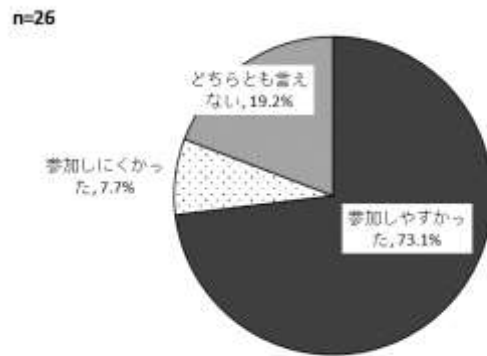
※その他：

- 仕事しながら視聴しなければならなくて時間に余裕がなく、まとめて見れなかったことが多かった

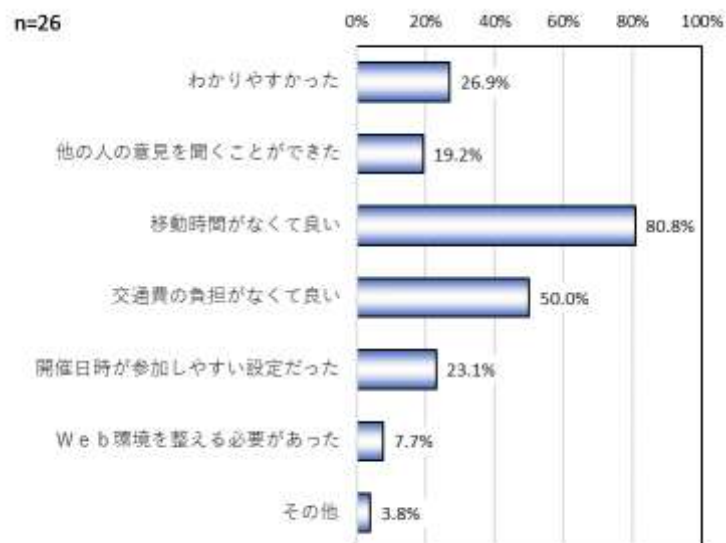
ライブ配信による研修については「参加しやすかった」が 73.1%、「どちらとも言えない」が 19.2%、「参加しにくかった」が 7.7%であった。

その理由としては、「移動時間がなくて良い」が 80.8%で最も多く、次いで「交通費の負担がなくて良い」が 50.0%、「わかりやすかった」が 26.9%であった。

ライブ配信による研修に対する評価



ライブ配信による研修に対する評価の理由（複数回答）



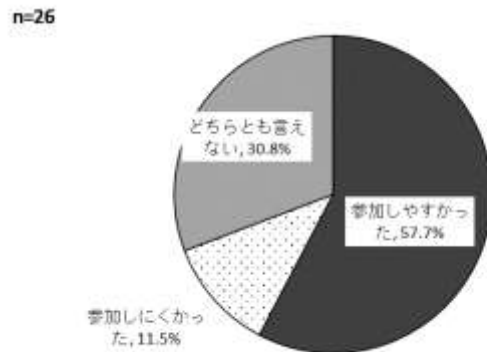
※その他：

- 休みを取っても、遠方にいるわけではないので、何かあると訪問に駆り出されてしまうから集中できない上、途中から退席する結果になりやすい。

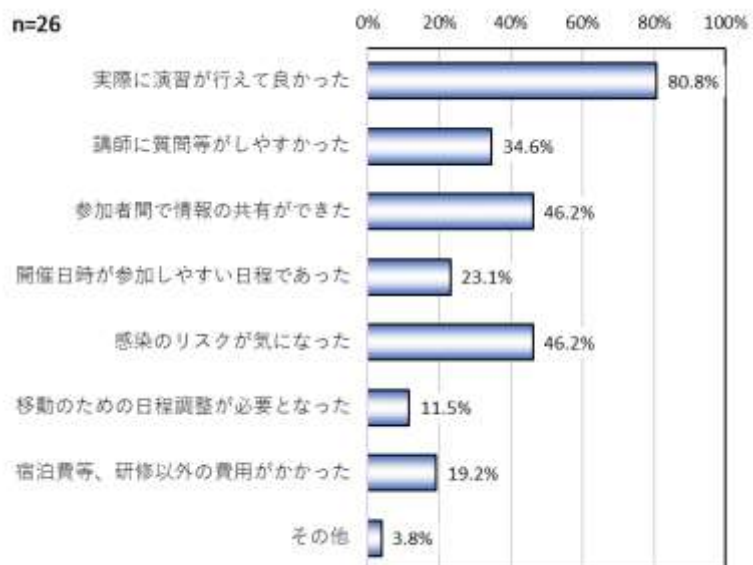
集合型・対面による研修については「参加しやすかった」が 57.7%、「どちらとも言えない」が 30.8%、「参加しにくかった」が 11.5%であった。

その理由としては、「実際に演習が行えてよかった」が 80.8%で最も多く、次いで「参加者間で情報の共有ができた」と「感染のリスクが気になった」がそれぞれ 46.2%であった。

集合型・対面による研修に対する評価



集合型・対面による研修に対する評価の理由（複数回答）

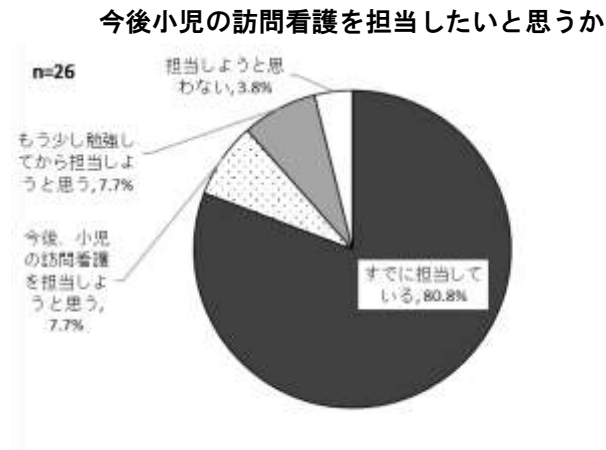


※その他：

- 参加できませんでした

⑭ 今後小児の訪問看護を担当したいと思うか

今後小児の訪問看護を担当したいと思うか尋ねたところ、「すでに担当している」が80.8%、「今後、小児訪問看護を担当しようと思う」と「もう少し勉強してから担当しようと思う」がそれぞれ7.7%、「担当しようと思わない」が3.8%であった。



※ご意見

- 訪問している地域では、小児訪問を昔から行っているステーションがあり、症例の依頼が来ない状態。いつでも対応できるように勉強を継続していきたい。

⑮ その他ご意見

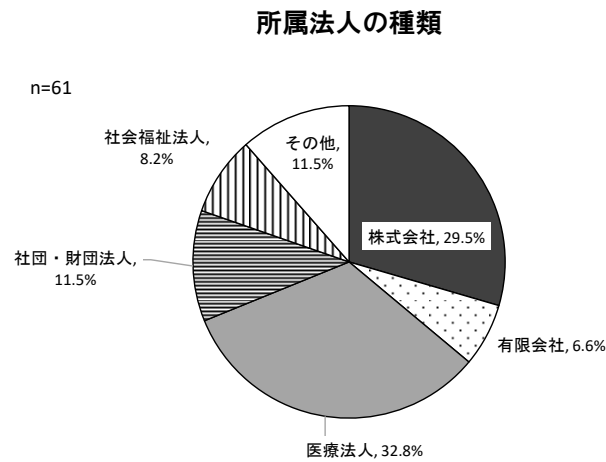
- オンデマンドの研修が期間内に何度も見直すことができよかったです。理学療法士による演習は実践的でよい学びになった。
- はじめてのオンデマンドやオンラインを使った研修会だったので、わからないことも多かったがやりやすかった。演習はやっぱり実際に行ってもらいわかりやすかった。今後もリハビリについての講義をもっと聞いてみたいと思う。
- 同レベルの演習が東京ではなくて各地域でも開催できるようにしてほしい。
- 障がい者福祉も徐々に考えられ在宅での療養児も増えてきている。在宅を支える一員の訪問看護師としての知識向上や適切な看護ケアの提供に繋がりたいと思う。参加できてよかった。来年度も受講したい。
- 現場での相談機関や情報交換の場が欲しい。
- わかりやすく、丁寧な講義、講習会の開催に感謝。
- 小児看護にかかわるには、両親の思いなどに寄り添うことも大切で、他職種との連携など、自分だけでは解決しないことが多くある。調整力など、できたときにはやりがいを感じる事ができる。小児の成長とともに、かかり方や看護の内容も微妙に変化するなど柔軟な対応も望まれる。地域で小児を支え続けられるようスキルアップしていきたい。この研修を通しての学びは大きかった。実践に参加できなかったが資料を送ってもらった。
- 現在担当してないが、今後、担当予定がある。まだまだ心配や不安はあるが、少しずつ学んで家族や他の職種と相談しながら、進んでいけたらいいと思う。来年の研修にも楽しみ。
- 今回の研修は各論で学習でき、大変今後の訪問看護のためによかった。PartIV.Vもぜひ参加したい。グループワークは工夫してくれありがたい。

(3) 小児訪問看護情報交換会

小児訪問看護情報交換会の参加者 126 人のうち、61 人の回答を得た（回収率：48%）。

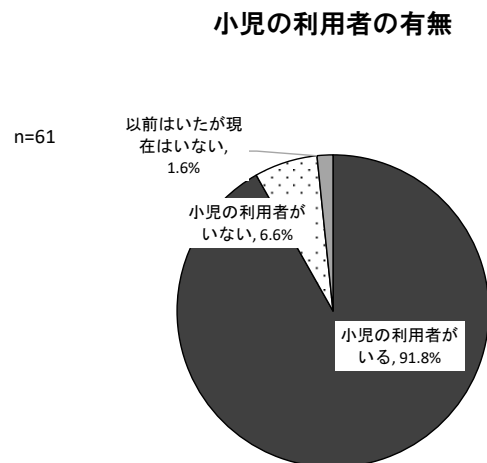
① 所属法人の種類

所属法人の種類は「医療法人」が 32.8%で最も多く、次いで「株式会社」が 29.5%であった。



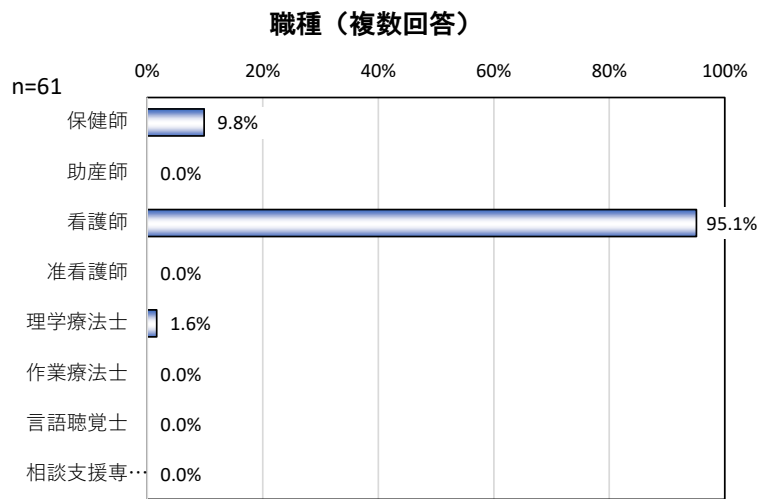
② 小児の利用者について

小児の利用者については「小児の利用者がいる」が 91.8%、「小児の利用者がいない」が 6.6%であった。



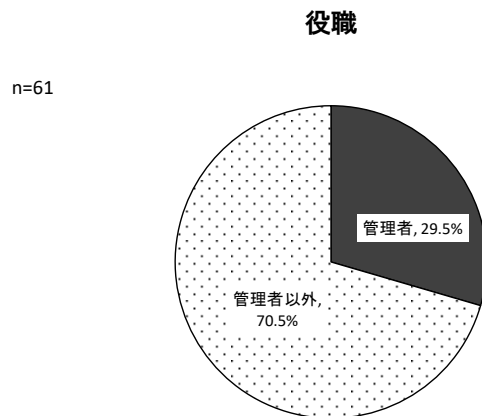
③ 職種

職種は「看護師」が95.1%であり、次いで「保健師」が9.8%であった。



④ 役職

役職は「管理職」が29.5%、「管理職以外」が70.5%であった。

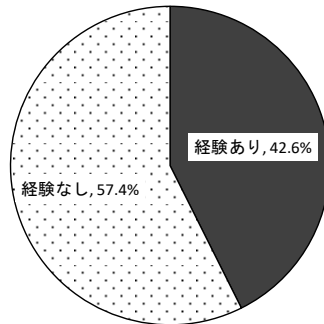


⑤ 医療機関における小児看護の経験

医療機関における小児看護の経験は「医療機関での小児看護の経験あり」が 42.6%、「医療機関での小児看護の経験なし」が 57.4%であった。

医療機関における小児看護の経験の有無

n=61

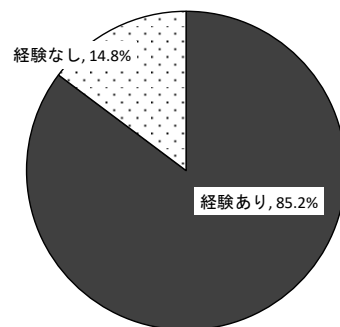


⑥ 小児訪問看護の経験

小児訪問看護の経験は「小児訪問看護の経験あり」が 85.2%、「小児訪問看護の経験なし」が 14.8%であった。

小児訪問看護の経験の有無

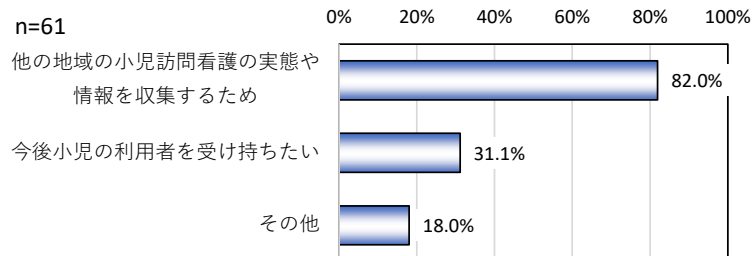
n=61



⑦ 参加動機

参加動機は「他の地域の小児訪問看護の実態や情報を収集するため」が 82.0%で最も多く、次いで「今後小児の利用者を受け持ちたい」が 31.1%であった。

参加動機（複数回答）



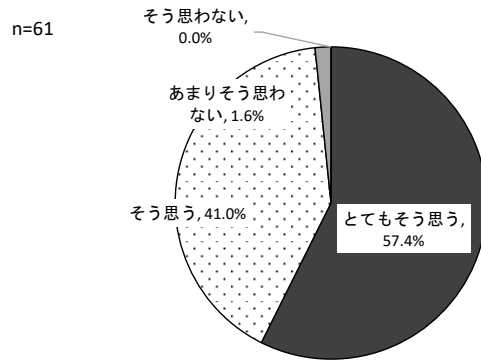
【その他】

- ミトコンドリア病の生後5ヶ月児の看取り支援を開始したため。
- 病棟での小児看護経験がない中で小児の訪問をすることになったので知識を深め、両親との接し方を学びたい。
- 自分の不足している点を気づき補うため。
- 看護学校で小児訪問看護の講師をすることになり現状把握したい。
- お父さんお母さんの生の声を聴きたい。

⑧ 参加して、今後の小児訪問看護の活動に役立ちそうか

参加して、今後の小児訪問看護の活動に役立ちそうかについては、「とてもそう思う」が 57.4%、「そう思う」が 41.0%、「あまりそう思わない」が 1.6%であった。

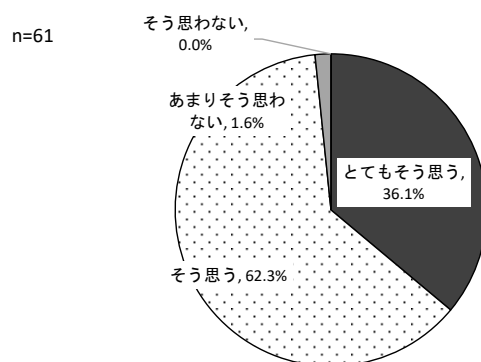
参加して、今後の小児訪問看護の活動に役立つと思うか



⑨ 小児訪問看護を始めてみようと思うか

小児訪問看護を始めてみようと思うかについては、「とてもそう思う」が 36.1%、「そう思う」が 62.3%、「あまりそう思わない」が 1.6%であった。

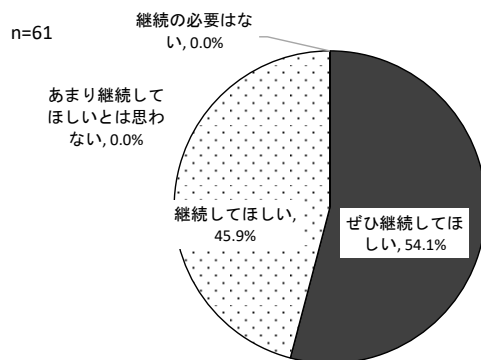
小児訪問看護を始めてみようと思うか



⑩ 今後、小児訪問看護を中心とした情報交換会などを継続することについて

今後、小児訪問看護を中心とした情報交換会などを継続することについては「ぜひ継続してほしい」が54.1%、「継続してほしい」が45.9%であった。

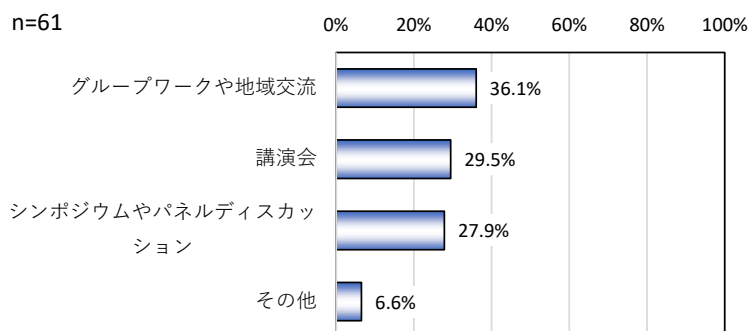
今後小児訪問看護を中心とした情報交換会などを継続することに対する意見



⑪ 継続してほしい内容

今後、小児訪問看護を中心とした情報交換会などを継続することについて「ぜひ継続してほしい」または「継続してほしい」と回答した61人について、継続してほしい内容を尋ねたところ、「グループワークや地域交流」が36.1%で最も多く、次いで「講演会」が29.5%、「シンポジウムやパネルディスカッション」が27.9%であった。

今後継続してほしい内容（複数回答）



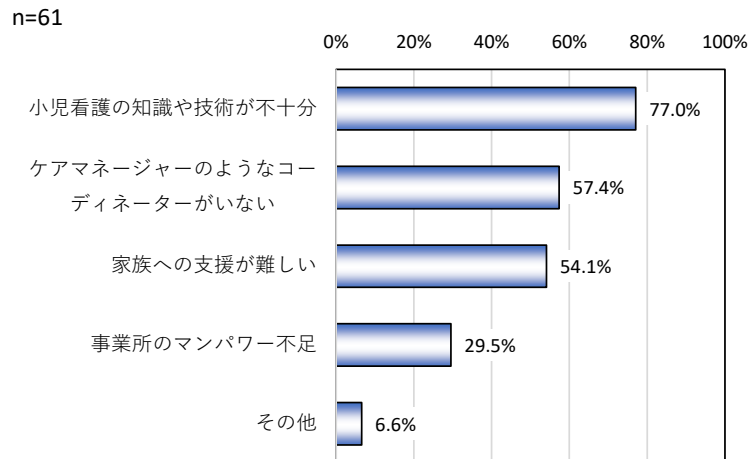
【その他】

- 当事者家族の話を聞きたい。
- 小児ケアに関する法令や支援制度の使い方。
- 小児病院、小児在宅医の見学、同行訪問。
- 今回のような実際に訪問看護を利用されている家族の意見や利用による反応。

⑫ 小児訪問看護に携わるに当たり、困難と感ずること

小児訪問看護に携わるに当たり、困難と感ずることは「小児看護の知識や技術が不十分」が77.0%で最も多く、次いで「ケアマネジャーのようなコーディネーターがない」が57.4%、「家族への支援が難しい」が54.1%であった。

小児訪問看護に携わるに当たり困難と感ずること（複数回答）



【その他】

- 判断が難しい。
- 重症度と医療機器への不安。
- 小児の看取りや意思決定の支援。
- 主治医が拠点病院などの場合、状態変化時に連絡が取りにくい。

⑬ 小児訪問看護に関するご意見

【経験・知識】

- 経験と知識は必要であると実感した。
- 勤務で小児の経験者が少なく、経験者に頼りすぎている。他のスタッフの意欲向上に繋がるような勉強会を期待している。
- 研修会や情報交換でスキルアップを図りたい。

【相談先の必要性】

- 小児に特化したステーションではないため、知識やケアの工夫で悩む時に気軽に相談できるところがあると良い。
- 訪問看護ステーションの相談先がない。

【連携】

- 各地域で小児訪問看護の受け入れが難しい状況の中、不安がありながらも受け入れられている現状が聞けて、更に研修を重ね、安心して暮らせる地域作りの一つとなるようにしていきたいと感じた。
- 地域や行政単位で訪問看護の位置付けを明確にさせ、訪問看護が置いてきぼり感を感じないように整えてほしい。
- 障がいのショート施設や養護学校等の公的サービスとの連携方法、病院の退院支援看護師や小児専門在宅医とのネットワーク作りが必要だと考える。
- 小児訪問看護において複数のステーションが関わる時、どのように連携しているか、どのような工夫があるのか、他のステーションの方の意見をもう少し聞きたかった。

【利用者・家族との関係】

- 核家族化で介護者である母親の負担が大きいと感じる。早期介入し、信頼関係を築き、一緒に成長を看まることが負担軽減に繋がることを再確認した。
- 小児訪問看護は、両親（特に母親）との人間関係の構築からスタートし、先ずは、両親の思いに寄り添うことから始まると思う。
- 利用者の家族の貴重な意見を聞けてとても勉強になった。今後の訪問に役に立てたい。
- 小児訪問看護は怖い、難しい、親との関わりが大変、といった先入観があった。今回、両親の立場からの生の声、職場での現状や問題点を知り、小児の成長を一緒に見守る、まずはお友達になる、といった気持ちで接していこう、触れる事で安心感を持ってもらおうと思えるようになった。
- 小児訪問看護に対する苦手意識や困難さを正直に表してくださり共有する事ができた。苦手意識を持つのは自然な感情であり、その気持ちとどう向き合うか考えるきっかけになった。

【その他】

- 意見交換会の時、ファシリテーターが途中参加だったため、司会をしていた方が戸惑って見えた。
- ファシリテーターがいるなら最初から参加してほしかった。

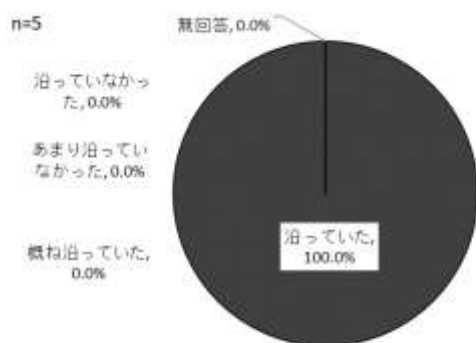
4) 委員の動画視聴後アンケート調査

(1) いのちを支える

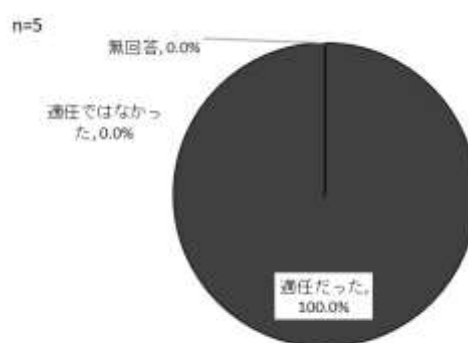
① 小児がんについて

講義内容がシラバスに沿っているか尋ねたところ、「沿っていた」が100%であった。
講師が適任であったか尋ねたところ、「適任だった」が100%であった。

講義内容がシラバスに沿っているか



講師は適任であったか



【講義内容に関する主なご意見】

- 実際の訪問事例をたくさん紹介しながら現状や課題等を説明しており、とてもよく分かった。
- 事例も入れてあり、詳しくわかりやすかった。資料も見やすく繰り返し見られる。

【講師に関する主なご意見】

- 経験豊富な講師で興味深く聞いた。

【講義で気になった点】

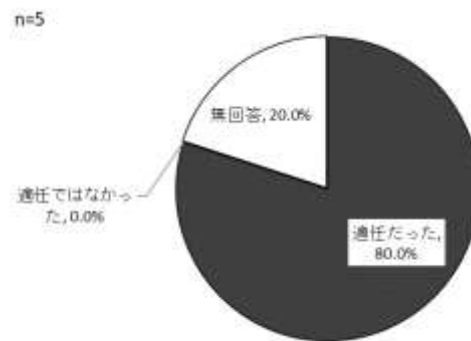
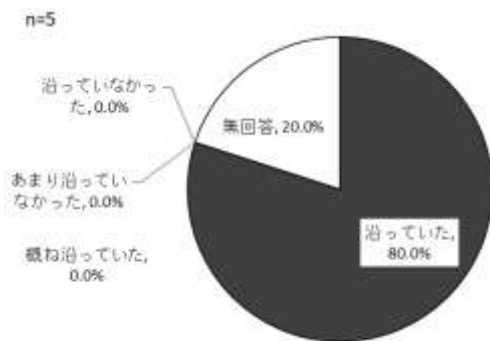
- 事例が多くわかりやすかった。事例に関しては対面だと泣いてしまいそうなども熱い事例だったと思う。点滴などの治療についても実施しているステーションがどのくらいあるのか、始めるにはどうしたらいいのか、知りたかった。

② よりよく生き抜くための重症心身障害児者の看護について

講義内容がシラバスに沿っているか尋ねたところ、「沿っていた」が80.0%であった。講師が適任であったか尋ねたところ、「適任だった」が80.0%であった。

講義内容がシラバスに沿っているか

講師は適任であったか



【講義内容に関する主なご意見】

- 事例を通じた対応や課題等もあるといい。
- わかりやすかった。

【講師に関する主なご意見】

- 講義もわかりやすかったし、療育の場の緩和ケアの重要性を感じた。現場で日々児や家族と向かい合っているからこそその説得力ある内容だったと思う。

【講義で気になった点】

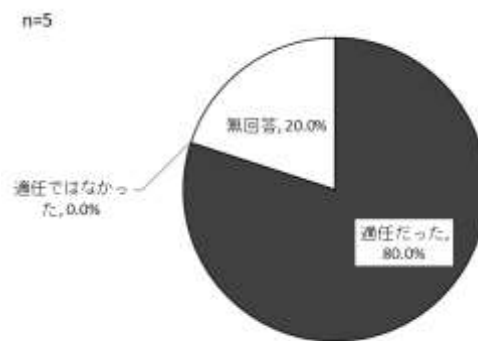
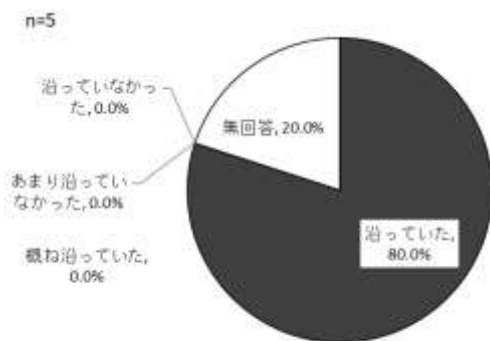
- 重症心身障害児の終末期について改めて考えさせられた。特に、医療的ケアを増やす治療の選択についても、親が代弁者となるので、正解がないのを再認識した。

③ 職種の理解とチーム医療について

講義内容がシラバスに沿っているか尋ねたところ、「沿っていた」が 80.0%であった。講師が適任であったか尋ねたところ、「適任だった」が 80.0%であった。

講義内容がシラバスに沿っているか

講師は適任であったか



【講義内容に関する主なご意見】

- 連携の実際の流れなどがあると、より連携のイメージがしやすいので事例があるとよいと思った。
- 相談支援事業所について訪問看護師側の理解がまだまだなので、説明してくれたことはよかったと思う。チームで関わるという部分は、まだまだこれからだなと感じた。

【講師に関する主なご意見】 (回答なし)

【講義で気になった点】

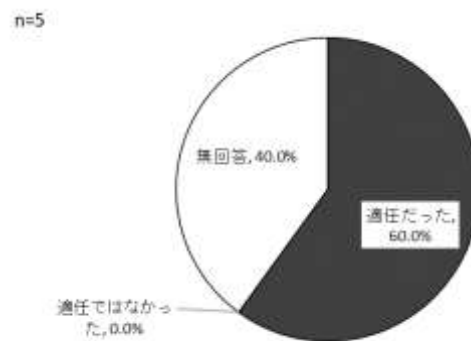
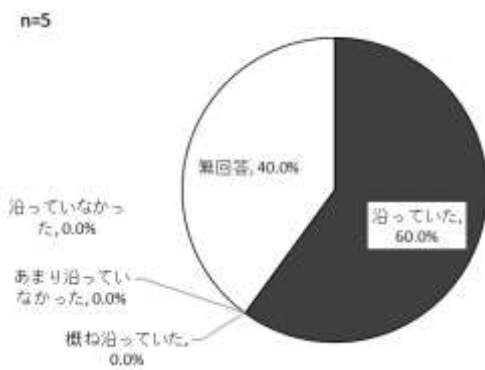
- 医療と介護、福祉すべてわかる相談員が少ないので、もっとわかりやすい連携ができないのかと思う。
- 特に問題なく行えた。

④ 子どもの権利と倫理のかかわりについて

講義内容がシラバスに沿っているか尋ねたところ、「沿っていた」が 60.0%であった。講師が適任であったか尋ねたところ、「適任だった」が 60.0%であった。

講義内容がシラバスに沿っているか

講師は適任であったか



【講義内容に関する主なご意見】

- かみ砕いた表現でわかりやすかった。

【講師に関する主なご意見】

- 講義がとても分かりやすかった。

【講義で気になった点】

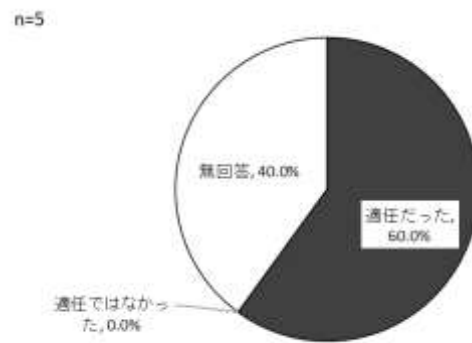
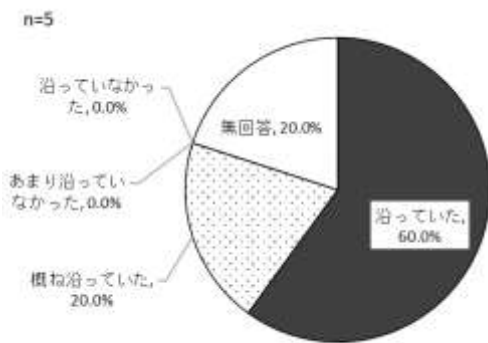
- 「もやもや」を話し合うのが良かった。講師が GW に参加してくれて、「もやもや」が「すっきり」に変わった人もいたと感じている。進め方等は特に問題なし。

⑤ 家族の思いに寄りそう看護について

講義内容がシラバスに沿っているか尋ねたところ、「沿っていた」が 60.0%であった。講師が適任であったか尋ねたところ、「適任だった」が 60.0%であった。

講義内容がシラバスに沿っているか

講師は適任であったか



【講義内容に関する主なご意見】

- 実際に関わっている訪問看護師だから気づくこと、反対に陥りやすいことがわかり、よかった。

【講師に関する主なご意見】

- 豊富な経験から説得力のある内容だったと思う。

【講義で気になった点】

- 全体的にオンラインのGWでテーマが二段階になるときは、時間でいったん区切る（あらかじめそのようにセッティングしておき、参加者にもファシリテーターにも時間配分がわかる形にしておく）ほうが迷わないなと感じた。

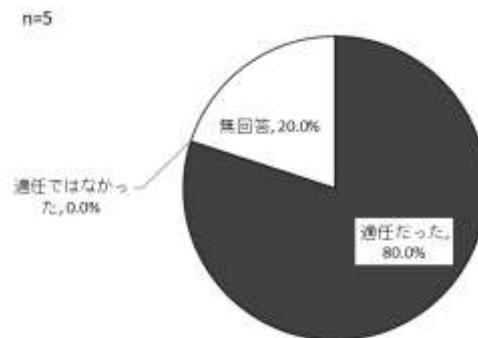
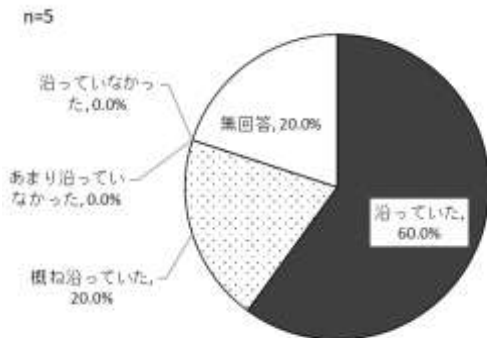
⑥ 急変時の対応について

講義内容がシラバスに沿っているか尋ねたところ、「沿っていた」が 60.0%、「概ね沿っていた」が 20.0%であった。

講師が適任であったか尋ねたところ、「適任だった」が 80.0%であった。

講義内容がシラバスに沿っているか

講師は適任であったか



【講義内容に関する主なご意見】 (回答なし)

【講師に関する主なご意見】 (回答なし)

【講義で気になった点】

- 人形での実践ができてよかった。小児の急変は少ないことやアンビューバックを押しすぎて肺が損傷するケースはなかったということが知れて一安心した。
- シミュレーターが各自に届いていたのはよかった。ファシリテーターにより進め方が違う感じだったので、講師との打ち合わせが必要だったと感じた。講師が一人で説明・技で大変そうだったので、ファシリテーターを活用できるといいと思った。

⑦ その他のご意見

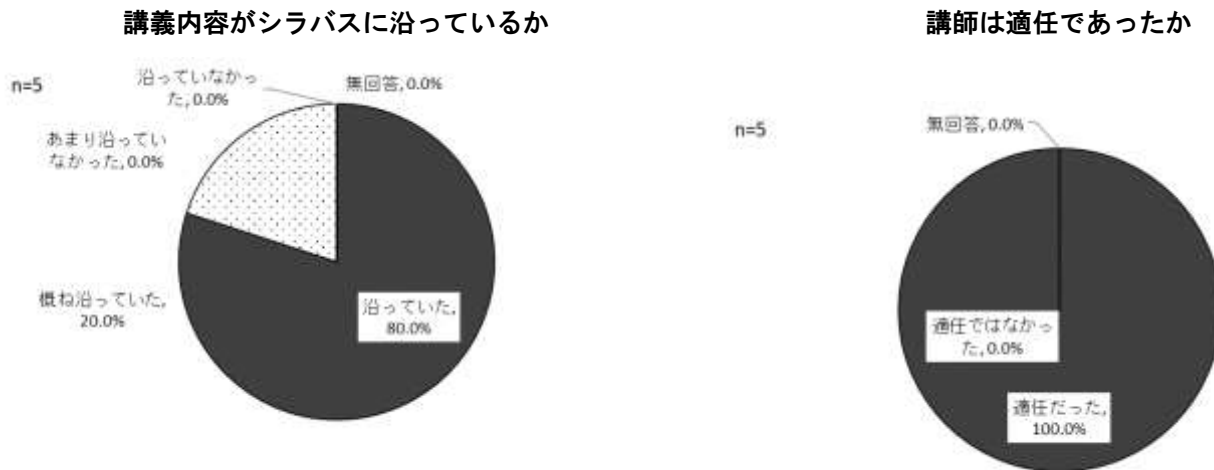
- 小児の終末期は涙なしでは聞けない事例だったが、10代の男子が前向きに戦い、受け止め、それをケアする医師、看護師が伴走者になって支えていくという成人や高齢者にも通じる事だと感じた。講師の「受容をせかしてはいけない」という言葉がとても心に響いた。
- どれも講義はわかりやすく良かった。質疑応答ができないのが残念。
- 小児がんは内容が難しいのでオンデマンドで繰り返し受講できる環境はありがたいと思う。わかりやすい講義だった。
- いい研修だった！！

(2) 活動すること

① てんかん発作について

講義内容がシラバスに沿っているか尋ねたところ、「沿っていた」が 80.0%、「概ね沿っていた」が 20.0%であった。

講師が適任であったか尋ねたところ、「適任だった」が 100%であった。



【講義内容に関する主なご意見】

- てんかんについて、基本的なことやメカニズムなど広く取り上げており、わかりやすかった。痙攣はしばしば話題に出ることだが体系的に学ぶことがなく、このような研修会で基礎から学べるのはとても良いと思う。また、具体例では、訪問看護でよく出会う心身障害児者について取り上げており、実際の訪問に大変役立ちそうと感じた。
- 詳しく教えてくれた。

【講師に関する主なご意見】

- 専門性はもちろんだが、語りが柔らかく聴きやすい。

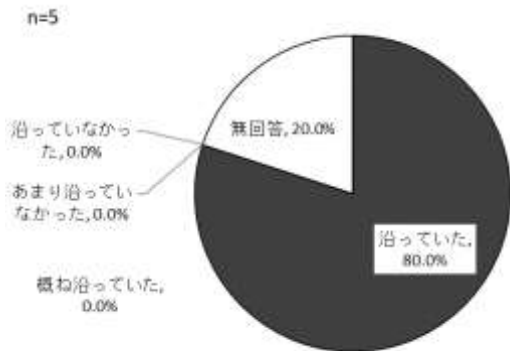
【講義で気になった点】

- 新薬や今はやりの治療などが知りたい。外科の治療も増えている気がしている。

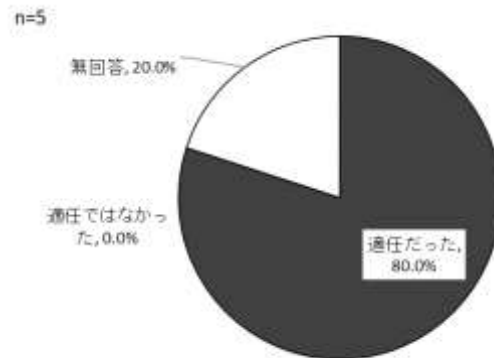
② 睡眠障害について

講義内容がシラバスに沿っているか尋ねたところ、「沿っていた」が80.0%であった。講師が適任であったか尋ねたところ、「適任だった」が80.0%であった。

講義内容がシラバスに沿っているか



講師は適任であったか



【講義内容に関する主なご意見】

- メカニズムや対応などとても分かりやすかった。重症心身障害児の睡眠について詳しく説明され、訪問看護のニーズにフィットしている。とても頭に入ってくると感じた。

【講師に関する主なご意見】 (回答なし)

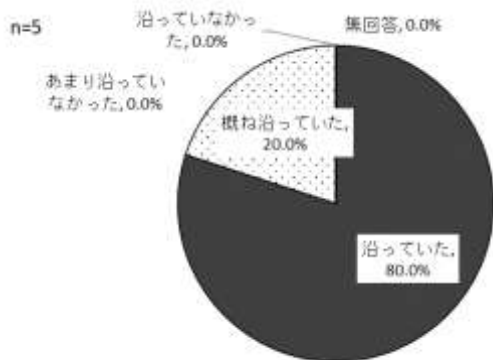
【講義で気になった点】 (回答なし)

③ 耳鼻科疾患について

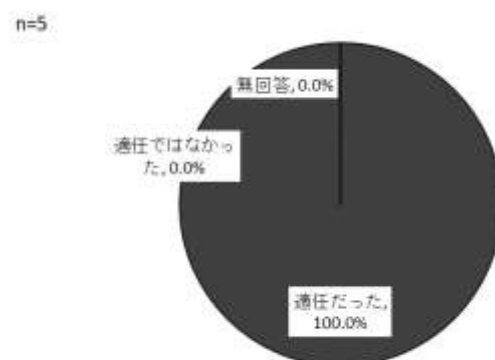
講義内容がシラバスに沿っているか尋ねたところ、「沿っていた」が 80.0%、「概ね沿っていた」が 20.0%であった。

講師が適任であったか尋ねたところ、「適任だった」が 100%であった。

講義内容がシラバスに沿っているか



講師は適任であったか



【講義内容に関する主なご意見】

- 心身障害児者に沿った話で、良く理解できた。
- 中耳炎になっている方が多いので不快感や聞こえ方なども知りたい。
- 基本の部分をきちんと講義してくれた。

【講師に関する主なご意見】 (回答なし)

【講義で気になった点】

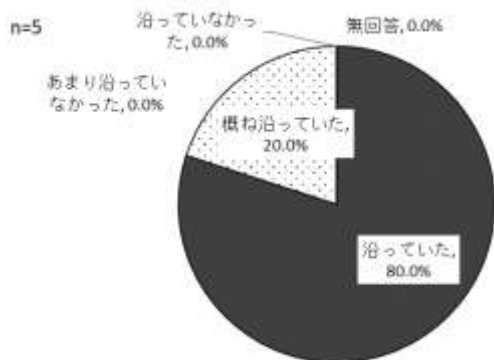
- ZOOM の収録だったので画像と音声がところどころ難ありだなと感じた。

④ 眼の機能・眼科疾患について

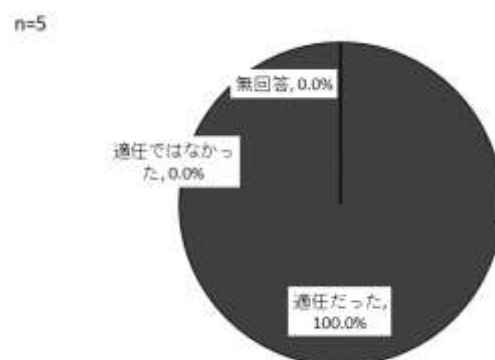
講義内容がシラバスに沿っているか尋ねたところ、「沿っていた」が 80.0%、「概ね沿っていた」が 20.0%であった。

講師が適任であったか尋ねたところ、「適任だった」が 100%であった。

講義内容がシラバスに沿っているか



講師は適任であったか



【講義内容に関する主なご意見】

- シラバスに沿ってはいるが、もう少し訪問看護でいくような心身障害児者に寄った話がほしい。
- 重心の方の視力や見え方、視野などにも興味がある。
- 基本をきちんと教えてくれた。

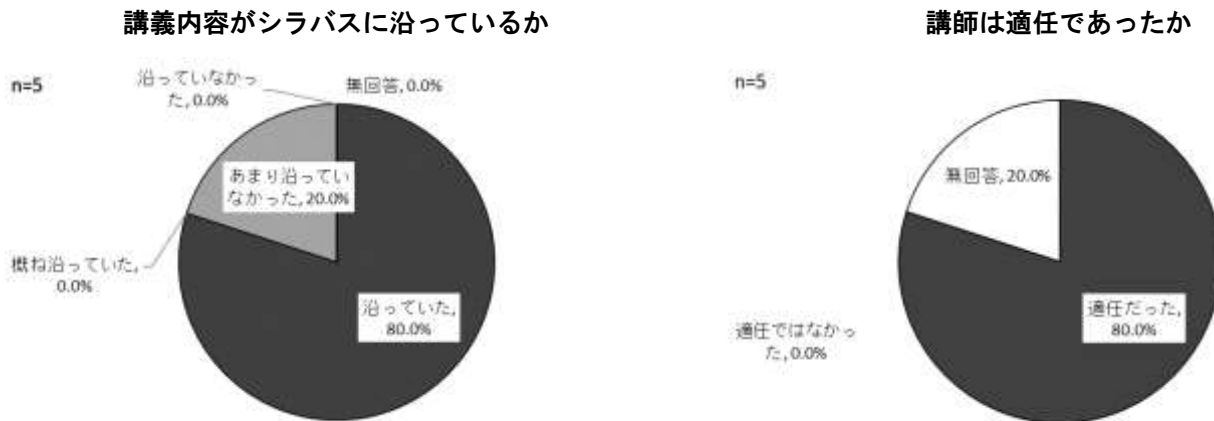
【講師に関する主なご意見】 (回答なし)

【講義で気になった点】 (回答なし)

⑤ 発達障害の理解と対応について

講義内容がシラバスに沿っているか尋ねたところ、「沿っていた」が 80.0%、「概ね沿っていた」が 20.0%であった。

講師が適任であったか尋ねたところ、「適任だった」が 80.0%であった。



【講義内容に関する主なご意見】

- たくさんの情報をスライドに入れてあり、何回も見て学習したいと思った。対応方法など細かに説明がありよかった。関係者や親への対応も多く取り上げ、参考になる。
- 介護の人たちにも知ってもらいたい内容でとてもよかった。看護師だけではもったいないと思った。
- 詳しく講義してくれた。なかなか発達障害についてきちんと学ぶ場がなかったので、今回個人的にもとてもありがたかった。受講者にとってもよかったと思う。

【講師に関する主なご意見】 (回答なし)

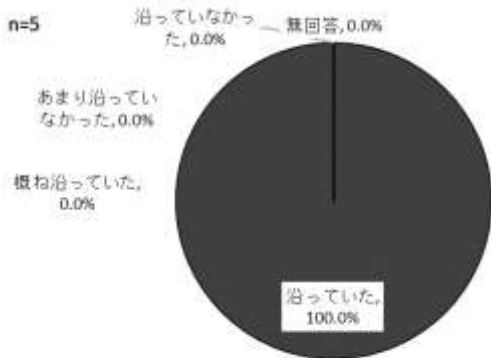
【講義で気になった点】

- シラバスが「理解と対応」となっていたが、「学ぶ」だけにした方が良かったのでは？ 対応は医師が講師では無い方が良いのではないかと感じた。

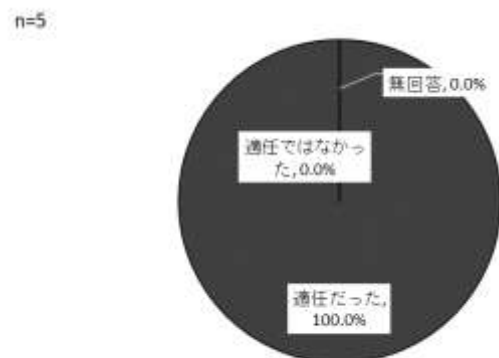
⑥ 児童相談所の機能と役割について

講義内容がシラバスに沿っているか尋ねたところ、「沿っていた」が100%であった。講師が適任であったか尋ねたところ、「適任だった」が100%であった。

講義内容がシラバスに沿っているか



講師は適任であったか



【講義内容に関する主なご意見】 (回答なし)

【講師に関する主なご意見】

- なかなか聞くことのない内容だったので、現状を知ることができて良かった。

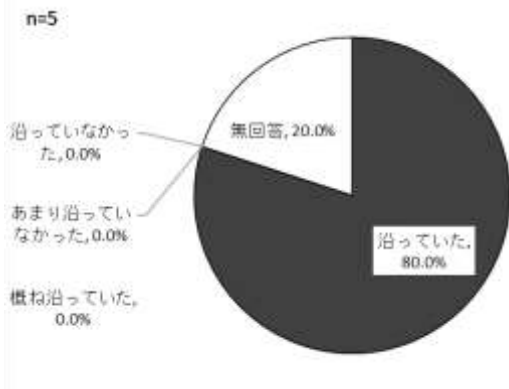
【講義で気になった点】

- 長期入所の申し込みは児相だったり、障がい判定などで関わることも多いので、虐待以外の役割ももっと知りたい。

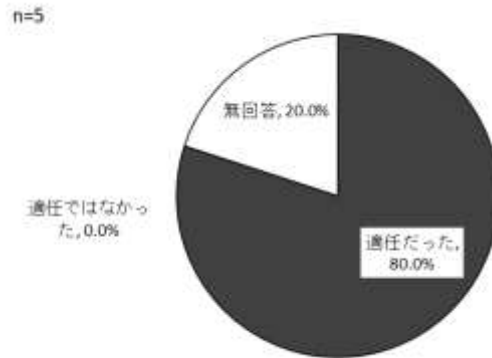
⑦ 特別支援学校における看護の役割について

講義内容がシラバスに沿っているか尋ねたところ、「沿っていた」が80.0%であった。講師が適任であったか尋ねたところ、「適任だった」が80.0%であった。

講義内容がシラバスに沿っているか



講師は適任であったか



【講義内容に関する主なご意見】

- 特別支援学校等と訪問看護の関わりの事例が特に参考になった。先駆的な事例であり、事例を聞く機会がないのでとても良かった。講義中でも話されているが、特別支援学校とほかの話も幅広く出てくるので、特別支援学校等としたほうが良いかもしれない。

【講師に関する主なご意見】

- 学校における看護師の役割の難しさが理解できた。

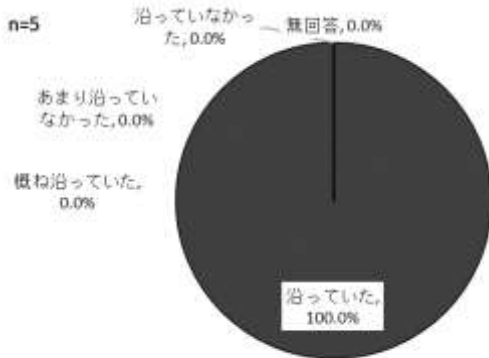
【講義で気になった点】

- 講義はとてもわかりやすかった。都道府県でかなり対応もちがうので、難しさを感じた。現在未就学児に関しては母子分離が進んでいる中、小学校入学時に再び付き添いになってしまうなど、課題の多さの中での学校ナース（現場）の葛藤をもっと知りたかった
- 実践されている方の話なので、とてもよかったと思う。今後は、学校看護師が話してくれる機会が持てるといい。

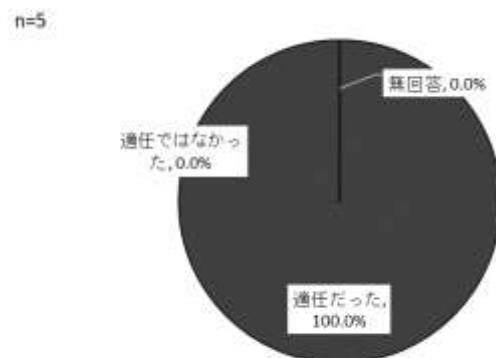
⑧ 福祉用具・装具について

講義内容がシラバスに沿っているか尋ねたところ、「沿っていた」が100%であった。
講師が適任であったか尋ねたところ、「適任だった」が100%であった。

講義内容がシラバスに沿っているか



講師は適任であったか



【講義内容に関する主なご意見】

- 訪問看護でよくいく障害児者についての福祉用具の話で、大変参考になる。アセスメントなど、福祉用具とその選定に係る話を広く説明してくれよかった。

【講師に関する主なご意見】 (回答なし)

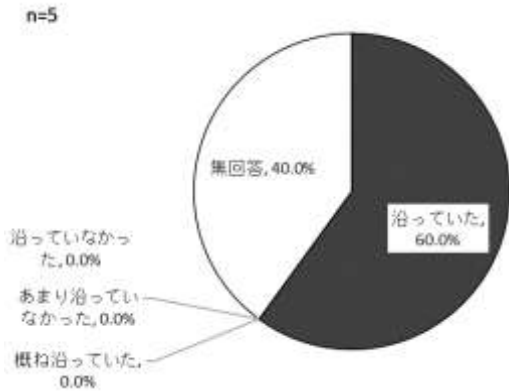
【講義で気になった点】

- 作成するときの制度なども知りたかった。

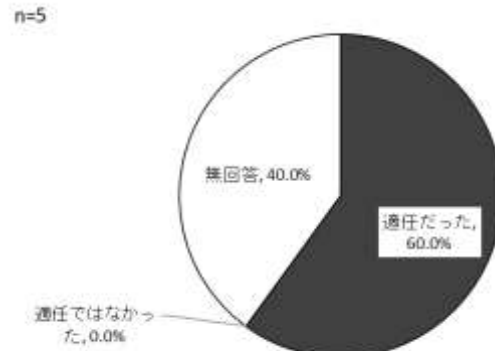
⑨ 最近の小児医療・重症心身障害児の医療・看護の動向について

講義内容がシラバスに沿っているか尋ねたところ、「沿っていた」が60.0%であった。講師が適任であったか尋ねたところ、「適任だった」が60.0%であった。

講義内容がシラバスに沿っているか



講師は適任であったか



【講義内容に関する主なご意見】 (回答なし)

【講師に関する主なご意見】 (回答なし)

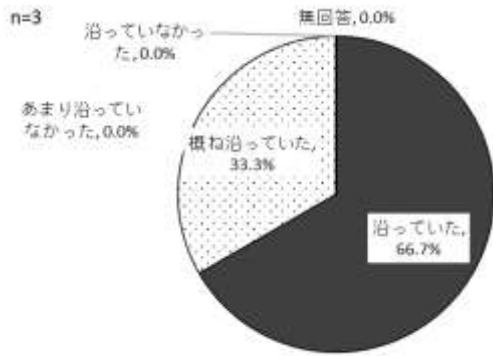
【講義で気になった点】 (回答なし)

⑩ 小児リハビリテーションについて

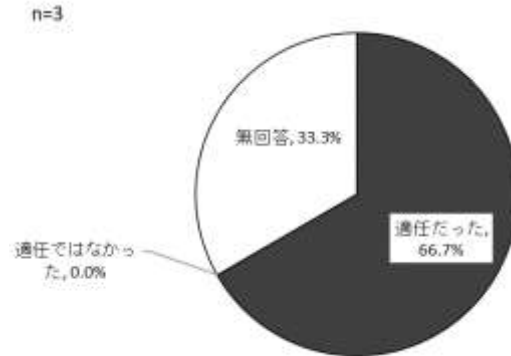
講義内容がシラバスに沿っているか尋ねたところ、「沿っていた」が 66.7%、「概ね沿っていた」が 33.3%であった。

講師が適任であったか尋ねたところ、「適任だった」が 66.7%であった。

講義内容がシラバスに沿っているか



講師は適任であったか



【講義内容に関する主なご意見】 (回答なし)

【講師に関する主なご意見】 (回答なし)

【講義で気になった点】

- 集合研修もわかりやすかった。実技や対面の大切さを再度確認した。

⑪ その他のご意見

- 小児訪問看護を以前受けた事があるが里帰りの1か月間だったために短い期間で終了した。それ以降は問合せがあっても依頼はなかなか来ない。依頼者は色々なステーションに問い合わせ、実績のあるステーションに依頼がいくのではと推察する。今後、一件ずつからでも良いので受けていきたいと思うが、現在では高齢者、癌末期、精神疾患の依頼が多くそれをこなすのに苦労している。
- 講義の内容はすべてわかりやすく充実していた。ただ、オンデマンドの場合、質疑応答ができないのはとても残念でした。

Ⅲ 今年度の成果と課題

小児訪問看護プログラムを開発・実施したところ、受講者アンケートの結果からは、概ね理解できる内容となっており、また、到達目標を達成できる内容となっていたと考えられた。委員の評価においても、講義の内容はシラバスに沿い、講師も適任と考えられた。一方で、いくつかの課題点も見られた。

一つ目は研修の開催方法についてである。本来の研修プログラムは1テーマを3日間、対面（集合）研修で実施するものであり、グループワークや演習を盛り込んでいることが特徴である。今回は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、一部の研修でオンデマンド配信やライブ配信での研修を行った。オンデマンド配信では自分のペースで視聴ができる、ライブ配信では移動時間を考えなくても良いといったことを理由に概ね好評であった一方で、質問がしにくいという意見も聞かれた。また、急変時の対応のライブ配信においては、プロのカメラマンに撮影してもらい、講師の手元がわかるような演習にし、さらにファシリテーターを4～5人に一人とするなど、対面研修に近い工夫を凝らした。こうした工夫が好評の要因であったと考えられる。また、一部実施した対面での研修は非常に評価が高かった。オンデマンド配信・ライブ配信の良さを活用しつつも、講義内容によっては可能な限り対面での研修を行うことが望ましいと考えられた。また、委員からは、グループワークの時間を延長してはどうか、演習は対面が良いのではないかとといった意見も聞かれた。今後研修の内容や実施方法等については、検討部会において検討を進める必要がある。

二つ目として参加者が当初予定よりも少ない結果となったことである。その要因として、新型コロナウイルス感染症が感染拡大している時期であり、新たな取組みに着手できない、1日以上研修参加は予定の確保が難しいなど、積極的に研修に参加する環境が整っていなかったことが考えられるが、本事業では原因が把握できていないため、今後実施する研修会でのアンケート調査等を通じて、原因と対策について検討する必要がある。また、昨年9月に「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」が施行されたが、まだまだ小児の訪問看護に対する理解は充分でないとする。

三つめは周知方法についてである。今回、研修等の周知は協会のホームページ上での周知、会員事業所へのFAXでの案内、協会のニューズレターへの案内の同封、書籍への掲載など、様々な媒体を活用して実施したが、想定よりも参加者数が少ない結果となり、その原因については、上述のとおり詳細な検証が必要である。受講者からは、オンデマンド配信やライブ配信があることで、遠方でも参加できるといった評価もあり、受講のメリット等についても分かりやすく伝えていくなど、周知方法についても改善する必要があると考えられた。

課題とは別に、小児訪問看護情報交換会についてである。情報交換会では、小児訪問看護研修の普及のほか、小児訪問看護に取り組もうとする訪問看護師や訪問看護ステーションを増やすことが最終的な目標となっている。同情報交換会は、定員50人に対して参加者126人と大きな関心が寄せられた。また、参加者アンケートからは、小児訪問看護を始めてみよう

と思うかについては、「とてもそう思う」が 36.1%、「そう思う」が 62.3%であるなど、一定の成果も見られた。利用者・家族の生の意見が聞けたり、参加者同士の情報共有ができることについても好評であったことから、こうした情報交換会は引き続き継続して取り組む必要があると考えられた。

なお、開発した研修プログラムは、適時改善・見直した上で、今後各地域で開催してもらいたいと考えており、当協会の検討部会で、都道府県訪問看護ステーション連絡会等への支援を中心に検討していく。

「医療的ケア児が地域において安心して療養できるようにするための
小児訪問看護研修プログラムの開発及び研修会等の開催」

発 行 日：令和4年3月

編集・発行：一般社団法人全国訪問看護事業協会